ISSN 1345-4323

常磐短期大学研究紀要

第　50　号（2021年度）

目　　次

原著論文

星野徹の〈予表的想像力〉……　菅野　弘久　56

研究ノート

幸田露伴と「児童文学」に関する一考察　……　渡辺　賢治　42

報告

来客応対実技における学生の行動変化―組織学習の観点から―　……　笹瀬佐代子　1

図書館司書資格を活用したキャリア形成枠組みの検討　……　高池　宜彦　11

常磐短期大学

令和４（2022）年３月

報　告

来客応対実技における学生の行動変化
－組織学習の観点から－

The Action Change of the Students in the Visitor Reception Practical Skill
－ The View of Organizational Learning －

笹瀬佐代子

要旨

COVID-19の流行によって経済活動が変化する中で、来客応対の頻度も変わるが、全くなくなるわけではない。「秘書学演習」の来客応対ロールプレイテスト実施時に「学習する組織」の視点を取り入れた。

仮説として、１．ロールモデルを見つけようと努力するなかで、言葉遣い、行動の良し悪しの観察眼が磨かれ、また他人から見られることの意識が自己成長を促す、２．クラス成員全員が意識して行動することで、クラス全体で高め合う雰囲気が生まれるとし、調査によって検証を行った。

仮説１・２とも直接的には証明できないが、一部に認められた。他人と見る・見られるの関係から丁寧な言動への意識が現われ、ロールモデルを見つけることで目標ができ、自己の成長を促す傾向がみられたことである。また、個人と組織の成長の相互作用は、組織成員の意識を高めるだけではなく、協力体制にある組織において可能であることが示唆された。

キーワード：組織学習、ロールモデル、成長

１．はじめに

COVID-19の流行によって経済活動が変化をしてきた。従来では訪問して直接顔を合わせ、直接その人と成りを確認してビジネスを進めるのであるが、COVID-19により画面越しに話をすることが多くなった。来客応対という場面は今後しばらく少なくなると思われるが、全くなくなるわけでない。

そこで、本学科の授業「秘書学演習」において、来客応対のロールプレイテスト時に、「学習する組織」の視点を取り入れ、学生に自分の行動がクラスやチームに影響を与えていること、ク

2022年2月1日受付
SASASE Sayoko　キャリア教養学科・准教授（秘書学、経営学）

ラスメートの良いところを見つけて見本とする（ロールモデル）ことで、個人とクラス（組織）が相互に高め合うことを意識させた。

意識化によって、自覚を生み行動の変化が生じたかを調査した。

２．組織学習

本稿では「組織学習」の定義を、安藤（2019）による「組織と個人を包含するシステム全体における組織ルーティンの変化」とする[1]。

組織学習は、個人と組織の関係性が重要となる。個人と組織は互いに影響を受け合っているのであり、どちらの影響が大きいとも言えず、また片方の存在がなければ成り立たない。

図１にマーチ& オルセンの組織の選択の完全サイクルのモデル[2]を示した。

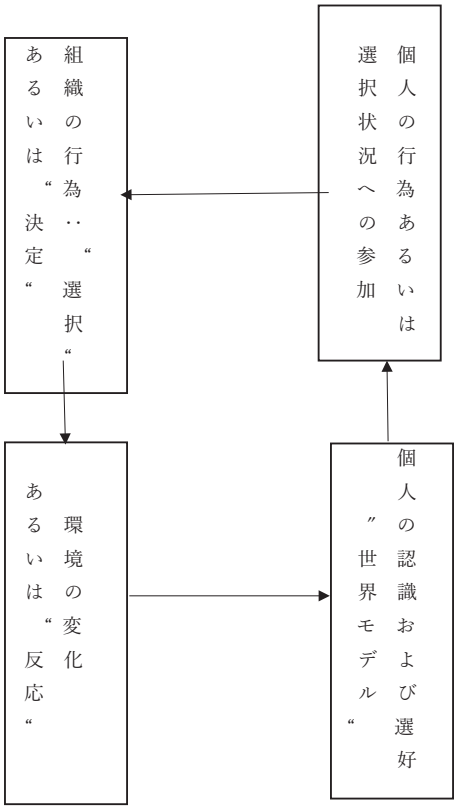

図１．組織の選択の完全サイクル

（J.G. マーチ・J.B. オルセン、遠田雄志・アリソン・ユング訳
『組織におけるあいまいさと決定』有斐閣、1986 年、p7 より）

時間的経過により組織の参加者と組織が絡み合って組織の選択が進行する。組織の参加者があるべき世界と現実世界との差異に気づき、「個人の認識および選好」が「個人の行為あるいは選択状況への参加」に影響する。さらに個人の行動は、「組織の選択」に影響し、影響を受けた組織の行為は、「環境の変化」に反応する。「環境の変化」は「個人の認識および選好」に再び影響し、閉じた連鎖が行われていく。

ここでは個人の気づきがきっかけとなり組織への変化へと発展していくメカニズムを表した。

今回、このマーチ& オルセンの組織の選択の完全サイクルを援用し、個人の言動がクラスメートに良い面にも悪い面にも影響を与え、見本（ロールモデル）になること、それが契機となりクラス（組織）への変化の循環が生まれることを学生に説明した。狙いは、授業内での個人の意識を高めること、意識の相互作用である。

仮説として次の二つを設定した。一つ目は、ロールモデルを見つけようと努力するなかで、言葉遣い、行動の良し悪しの観察眼が磨かれ、また他人から見られることの意識が自己成長を促すのではないかということである。二つ目は、クラス成員全員が意識して行動することが、クラス全体で高め合う雰囲気が生まれると考えた。

３．調査方法

マーチ& オルセンの組織の選択の完全サイクルを援用し、授業内で学生が互いに学び合う雰囲気作りに努めた。その後学生の意識と行動の変容を確認した。

（１）調査日

2021年11月25日～ 27日

（２）調査対象

調査対象は本学キャリア教養学科2年「秘書学演習」受講者37名である。

授業は面接方式で実施されているため、質問をGoogle Classroomで配信すること、個人が特定できないように無記名かつメールアドレスが特定されない方法で回答を収集することを説明したのちに配信した。

受講者37名のうちGoogle Classroom登録者24名に配信、うち13名が回答した。回収率は54.2％である。

（３）調査の手続き

①授業内での組織学習の説明

来客応対テスト実施前に、「組織学習」をプリントで説明した。個人の行動がグループやクラスに影響を与えている意識を持つことを図で伝えた。

また、春セメスターから行っているピアチェック（他己採点）は、対象者に対しての評価だけではなく、ピアチェックを行う側が行動の良し悪しを見分け、見本となるロールモデルを見つけて自分の言動を振り返ることが目的であることを伝えた。

②来客応対テストの実施

来客応対のテストは、一人が来客、訪問先上司、秘書の3役をこなし、クラスメートが秘書役のスマートフォンで撮影し、レポートに自分の事例を確認することになっている。また3役では一人ずつピアチェック（他己評価）を行っている。

受講者全員が実施するため、3回の授業でテストを実施し、毎時のテスト開始前に組織学習の説明を行った。

③学生への質問内容

i　来客応対実施時、気をつけたこと

ii　テスト実施時に自分の行動がクラスのみんなに与える影響を意識したか

iii　意識した時の、自分の行動の変化

iv　ロールモデルを見つける意思の有無

v　ロールモデルを見つけることで、自分の言動の変化

vi　個人と組織の相互作用を知っての感想

vii　個人が成長していこうとするときの、必要な組織の雰囲気

（4）結果と考察

自由記述の一部を、牛澤（2021）によるテキストマイニング[3]で分析を行った。

①来客応対実施時、言葉・行動に気をつけたこと

表１に「来客応対実施時、言葉・行動に気をつけたこと」について得られた代表的な結果を示した。

重複記述で、「言葉遣い」が７名と最多、次に「きびきび行動する」など行動に関する記述が5名、「相手の目を見て話す」が3名であった。アルバイトをしている者が多いとはいえ、来客役・訪問側上司役による即興会話での敬語はなかなか慣れないとみえ、言葉遣いに留意していた。さらに気持ちのよい会話を支えるのは、相手の目を見て話すこととよく理解をしていた。言葉だけでなく細かい動作を丁寧に行っていたことが窺えた。

表１　来客応対テスト時に気を付けたこと（n=13、重複回答）

区　分	記　述　さ　れ　た　言　葉
敬語	正しい敬語、丁寧な言葉遣い、言葉遣い
アイコンタクト	相手の目を見て話す
笑顔	笑顔
姿勢	背筋を伸ばす、姿勢
動作	きびきび行動、素早い行動、お辞儀、歩き方、丁寧な応対、名刺交換、お茶の出し方
話の内容	商品説明

表２　意識した時の自分の行動の変化（n=13、重複回答）

区分	記　述　さ　れ　た　言　葉
丁寧な応対	・きれいなお辞儀や丁寧に見える行動をした ・所作一つ一つを丁寧に行うように意識した ・見られても恥ずかしくないような立ち居振る舞いをしなければならないという気持ちになった ・実際にお茶を出す時に音を立てずに出すことができた
明るい応対	・笑顔を忘れず、明るい応対ができた ・明るい印象を与えられる行動ができるようになった
姿勢	・指先まで意識した
話し方	・声を大きくはきはきと話すように意識した
影響の与え方	・自分の行動がみんなに影響を与えるというのは良い意味でも悪い意味でもどちらでもありえると思った。そのため、良い影響を与えることができるように気持ちの変化があった

②自分の言動がクラスに影響を与えている意識

「自分の言動がクラスのみんなに影響を与えていることを意識して来客応対を実行したか」の質問には、13名中11名（84.6％）が意識したと答えていた。

③意識した時の自分の行動の変化

次に、自分の言動がクラスの成員に意識した場合、自分の行動にはどのような変化が生じたかについての質問の結果を表２で示す。

人に見られている意識から、より丁寧で明るく好印象を与える行動を行うことができるようになっていた。

④ロールモデルについて

言葉遣いや行動のロールモデルを見つけようとしていたかどうかでは、全員がロールモデルを見つけようとしていた。

ロールモデルを見つけようと努力することで、自分の来客応対の見方が変わったかどうかに対する質問の結果では、13名中11名（84.6％）が変わったと答えた。

ロールモデルを見つけることで、来客応対への見方の変化があったかとの質問の回答を表３に示す。ロールモデルの行動から、自分の行動の改善と来客応対の考え方への変化の2方向が示されていた。

自分の行動の改善では、自分がよいと思われる人の言動を真似して少しでもよい印象を与えられるよう努力をしていた。

来客応対の考え方への変化では、どのように表現すれば客を迎える「心」が伝わるかを考えていたと思われる。

ここで、語と語の共起関係を図示したテキストマイニングによる共起ネットワークの図２を示す。共起ネットワークとは、語と語のつながりを可視化した分析手法である。円の大きさは語の

表３　ロール・モデルを見つけた来客応対への見方の変化（n=13、重複回答）

区　　分	記　述　さ　れ　た　言　葉
自分の行動の改善	・自分があの人の来客応対いいなと思った人に近づけるように、自分の動作を見直すことができた ・問題がないと思っていた自分のお茶の淹れ方も、見本とした人と比べるとたくさん改善点があることに気が付いた ・立ち振る舞いで目標にしたい人を見つけることで、自分と比較して足りない部分を知ることができた ・受付する際の明るい挨拶やお辞儀、商品説明に対する言葉遣いが大変為になったと実感し、自分もこれからは、誠実に改善していきたいと思った
来客応対に対する考え方の変化	・言葉一つ変えるだけで、人の印象は変わるんだなと感じた ・初めはただ応対をするという面でしか考えることができなかった。しかし、見学をしていてそれでは相手に失礼で配慮に欠けていると感じた。相手を敬っている心遣いを示すためにも来客応対には、綺麗な姿勢、動作、言葉遣い、笑顔が必要だというふうに捉えることができるようになった ・商談の際の話の広げ方の考え方が変わった。最初に世間話をしたり、契約成立後の資料発送などより深いところまで話をするようになった ・自分も普段から品のあるお辞儀や言葉遣いを意識しようと思った。

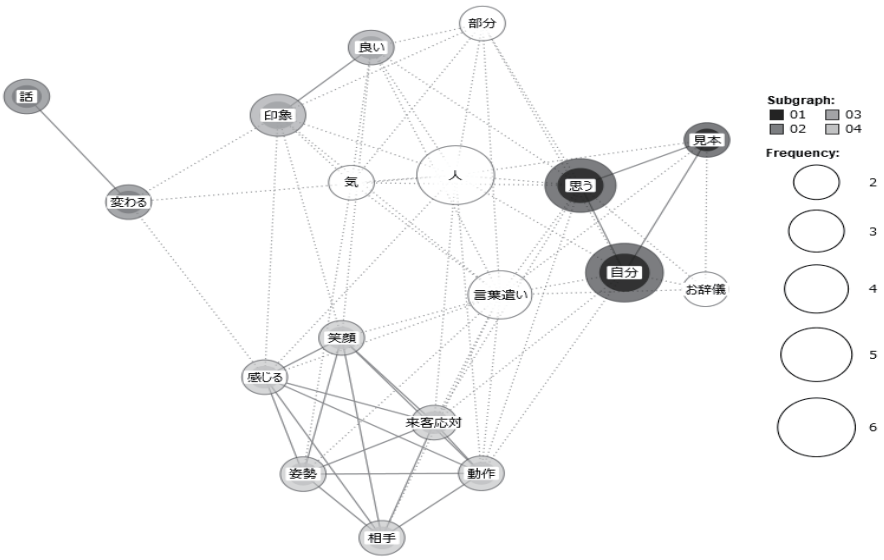

図２　ロールモデルを見つけることでの変化

表４　個人と組織が影響を与え合うことへの感想（n=13、重複回答）

区　　分	記　述　さ　れ　た　言　葉
見られてロールモデルになることへの期待と責任	・自分が誰かのお手本になれるかもしれないという喜びと責任感を感じた ・自分が感じた他の人の良さのように、みんなにも自分の行動が良いと思ってもらえたらいいなという気持ちも持ちながら行動することで、より良い行動を心がけることができた。 ・自分の応対が見本となるような言葉遣いや行動をしたいと思った ・どうせ見られていないのだから手を抜こうという考えがなくなった。見たり、見られていることを意識することでより技術に磨きをかけられたと感じた ・しっかり自分の責任感を持つことに、より強く認識した。
自己とメンバーの成長	・個人で黙々と勉強するだけでなく、他の人の意見、行動を見ていい所を取り入れることでより成長できると感じた ・自分一人ではなく、周りの人と協力し合ったり刺激をもらったりすることで成長できるのだと思った。 ・自分が適切な応対をすることで他の人の成長にも繋がり得ると感じた
自己を客観視	・以前よりも自分を客観的に捉えることができるようになったと感じた

出現頻度を著し、大きくなるほど語の出現が高い。また、語と語をつなぐ線の太さは、関連性の強さを示し、太いほどつながりが強い。

図２からは、笑顔、動作、姿勢といった具体的な行動群のまとまりが強く、具体的行動を意識していることがわかる。

⑤個人と組織のメンバーが影響を与え合うことを知って感じたこと

組織の中においては個人の行動組織内メンバーの言動に互いに影響を与え合うことを知って、どのようなことを感じたかの質問に対する結果を、表４に示した。

ロールモデルを見つけることは、自分の言動を振り返ること、さらに自分もロールモデルになる可能性への期待から、言動をより丁寧に理想に近づける責任感を持つようになったことがわかる。

図３に個人と組織のメンバーが影響を与え合うことを知って感じたことの共起ネットワークを示した。「自分」を中心に２つの語群が見られる。「人」「見る」「大切」「成長」「意識」の語群と「クラス」「影響」「受ける」「持つ」「知る」「責任」の語群である。影響を受けることで責任を感じていることがわかる。

⑥個人の成長に必要な組織の雰囲気

個人が成長をしようと思うときに、グループやクラス（組織）の雰囲気で、どのようなことが必要かに対する質問の結果を表５に示した。

互いに協力し、成長を高め合おうとする雰囲気であることが重要と考えていることがわかる。

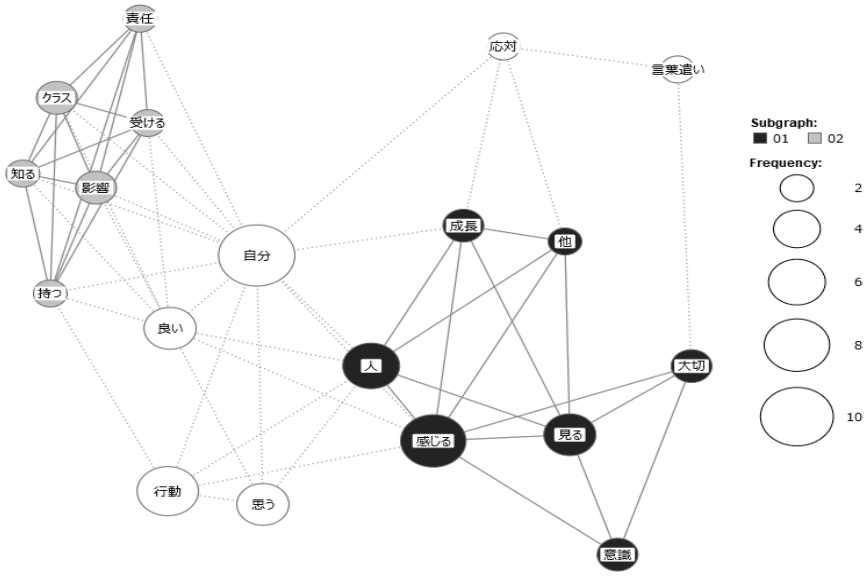

図３　個人と組織の相互作用の感想

表５　個人の成長に必要なグループやクラス（組織）の雰囲気（n=13、重複回答）

区　　分	記　述　さ　れ　た　言　葉
向上心を持って話ができる雰囲気	・互いの良いところや改善点をアドバイスし合える、そして一緒に高めあえること ・積極的に何事にも協力し、共に成長を高め合うなどモチベーションを向上させること ・目標はそれぞれ違っても、みんなで目標を達成しようとする雰囲気 ・成長していこうと思っている人を見て、自分も頑張ろうと思える雰囲気
協力体制	・協力し合い、みんなが真剣にやろうとする雰囲気 ・他の人のいいところを見つけていい影響を与えられるような行動を心がけること

５．まとめ

組織学習の理論を援用して、個人のスキルと同時にクラス全体のスキル向上を促す組織に必要な事柄を調査した。

「仮説１．ロールモデルを見つけようと努力するなかで、言葉遣い、行動の良し悪しの観察眼が磨かれ、また他人から見られることの意識が自己成長を促す」ことは、行動の良し悪しの観察眼が磨かれるかどうか不明であるが、他人から見られることの意識は、直接自己成長につながるとは認められない。しかし、丁寧な行動が自己成長への端緒とすれば、自己成長につながると考えられる。

次に「仮説2. クラス成員全員が意識して行動することが、クラス全体で高め合う雰囲気が生まれる」とは直接的に言えない。協力と成長への意識の両面があることが、個人と組織の相互成長する組織学習が可能と考えられる。

（４）結びにかえて

COVID-19の流行によって経済活動が変化する中で、来客応対の頻度も変わるが、全くなくなるわけではない。「秘書学演習」の来客応対ロールプレイテスト実施時に、「学習する組織」の視点を取り入れた。

他人と見る・見られるの関係から丁寧な言動への意識が見られ、ロールモデルを見つけることで目標ができ、自己の成長を促す傾向がうかがえる。

また、個人と組織の成長の相互作用は、組織成員の意識を高めるだけではなく、協力体制にある組織が可能であることが示唆された。従って授業内ではクラスの協力体制の雰囲気作りに努め、個人と組織の相互作用を意識することでクラス全体のスキル向上を心掛けたい。

今回はサンプル数が少ないため、すべてにおいて当てはまる傾向とは言い難い。今後も検証を続ける予定である。

注：今回調査はGoogleフォームを用いて無記名で行った。調査を行うにあたり、参加者に対して調査の目的と内容、個人が特定されることがないこと、参加は自由意志に基づくもので拒否による不利益はないこと、調査結果は論文等で個人が特定されることなく公表することを口頭およびフォーム記載の説明文で説明し、調査協力の同意を得た。

引用文献

１．安藤史江『組織学習』新世社、2019年、pp24
２．J.G.マーチ・J.B.オルセン、遠田雄志・アリソン・ユング訳『組織におけるあいまいさと決定』有斐閣、1986年、pp7
３．牛澤賢二『やってみよう　テキストマイニング増訂版』朝倉書店、2021年

報　告

図書館司書資格を活用したキャリア形成枠組みの検討

高池　宣彦

1.　問題の所在と目的

司書課程に関連する大学の就職支援は、自主ゼミ[1]、就職セミナーの一環[2]、就職懇談会[3]など、様々な形で行われている。筆者は常磐大学と常磐短期大学で司書課程科目等を担当しており、授業とは別に、司書資格を活用した就職相談・勉強会を開催している。学生は自由参加で、開催は授業開講期間の毎月、すべてオンラインで行っている。Google Classroomで告知や求人情報等の共有を行い、Google Meetによる同時双方向型で、就職指導、個別相談対応、図書館司書採用試験の対策や解説を行っている。登録学生数は49名（2021年11月現在）である。

司書資格を利用した就職において、正職員としての図書館員が狭き門であるという課題がある。それでは、司書の仕事は減っているのだろうか。図1は、1990年以降の公共図書館数と専任職員の経年変化を示したものである。専任職員数は、2020年までの間に3,754人減少しているが、公共図書館数は1,388館増加している。図書館数が増えているということは、司書の仕事も増えていると考えられる。専任職員数減少の背景には、業務委託の拡大がある[4]。

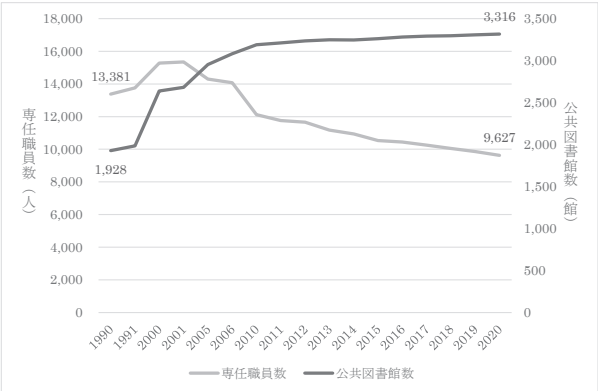

図1　公共図書館数と専任職員の経年変化
出所　日本図書館協会.「公共図書館経年変化」[5]をもとに筆者作成

2022年2月1日受付
TAKAIKE Norihiko　キャリア教養学科・助教（図書館情報学）

表1は、公共図書館、大学図書館、学校図書館、国会図書館の職員数の内訳を示したものである[6]。この表からわかるとおり、公共図書館では、非常勤職員、臨時職員、委託・派遣の合計は31,492人で専任職員の3倍以上、大学図書館非常勤職員、臨時職員、委託・派遣の合計は8,265人で約2倍である。学校図書館でも、非常勤職員は常勤職員の3倍以上を占める。国会図書館は常勤職員が多いが、採用は原則として欠員補充による若干名で、競争率が高く狭き門である[7]。

表１　図書館の職員数[8]

職員数

	公共図書館	大学図書館
専任職員	9,627	4,212
兼任職員	1,097	1,619
非常勤職員、臨時職員、委託・派遣の合計	31,492	8,265

	学校図書館
常勤職員	5,878
非常勤職員	18,514

	国会図書館
常勤職員	867
再任用短時間勤務職員	13

図書館への就職の課題として、正職員としての図書館員が狭き門であるという点以外に、丹（2019）は（1）正規図書館職員となるための情報がわかりにくいこと、（2）就職方法が複雑であること、（3）学生自身の図書館に対する問題の意識、（4）学習方法の情報の少なさ、を挙げている[9]。「司書課程のみを設けている大学では、学生が図書館への就職を希望しても、情報そのものが少なくどのようにしたらよいのかわからない、戸惑ってしまう」[10]という指摘もある。例えば水戸市立図書館の場合、中央図書館の図書館員は、直接雇用の正職員と会計年度任用職員である。一方、他の分館の図書館員は間接雇用である指定管理者の会社の職員（正規雇用・非正規雇用）であるというように相違があり、採用方法も別々に行われている[11]。
そこで本稿では、「正規図書館職員となるための情報がわかりにくいこと」に着目し、司書養成教育と就職支援に資するため、司書資格を活用した就職先を俯瞰するための枠組みを検討する。

2.　図書館司書資格を活用したキャリア形成枠組み

図書館への就職の課題の1つである「就職方法が複雑であること」を解決するためには、学生と教員が司書資格を活用できる就職先を俯瞰できるようにすることが求められる。そこで、司書の就職活動に関する文献や実際の求人情報をもとに、司書資格を活用できる就職先を整理した。（図2）。

雇用期間	資格必要・雇用長	資格有用・雇用長
長	① 地方公務員　司書採用 ② 図書館業務関連会社　正社員 ③ 専門図書館 正職員 ④ 公立大学図書館　正職員 ⑤ 私立大学図書館　正職員 ⑥ 学校司書　正職員	① 地方公務員　一般採用 ② 図書館業務関連会社　正社員 ③ 国立国会図書館　総合職・一般職 ④ 国立大学法人等　図書系職員 ⑤ 私立大学 正職員 ⑥ 学校事務　正職員 ⑦ 公文書館　専門職員 ⑧ 図書館業務関連以外の会社 正社員
	資格必要・雇用短	資格有用・雇用短
短	① 会計年度任用職員 ② 司書科目　教員 ③ 学校司書 非常勤	① 各図書館　非常勤職員 ② 図書館業務委託会社　契約社員・アルバイト

司書資格が応募資格として必要　　司書資格は応募資格としては不要だが学んだ内容が役立つ（有用）

司書資格の必要性

図2　図書館司書資格を活用したキャリア形成枠組み
出所　筆者作成

2.1.　資格必要・雇用長エリア

図2の左上の「資格必要・雇用長」エリアには、司書資格が応募資格として必要でありかつ、かつ雇用期間が長い就職先を含めた。以下に、それぞれの就職先の特徴を述べる。

2.1.1.　地方公務員 司書採用（図2資格必要・雇用長エリア①）

都道府県立、市区立、町立、村立の各図書館員（正規職員）は、身分上は地方公務員となるため、勤務を希望する場合は、それぞれの地方公共団体が実施する採用試験を受験する必要がある[12]。図書館員の採用は、下記の2通りがある[13]。

(1) 司書資格を有する者や取得見込みの者に限定して、採用試験を行う
(2) 事務や行政の試験区分で採用した者を図書館に配属する

「資格必要・雇用長」エリアの「地方公務員　司書採用」は上記（1）に含まれる。例えば令和3年度東京都職員採用試験では、II類試験区分司書で必要な資格・免許等として、司書の資格が挙げられている[14]。しかし、上記（1）の場合、事務や行政の試験区分よりも募集人数が少ない。

2020年度は、秋田市（秋田県）、宇都宮市（栃木県）、富山市（富山県）等[15]で、2021年度は、日野市（東京都）[16]、市原市（千葉県）[17]等で司書採用の試験が行われた。なお、大庭（2019）は、公務員試験で図書館職員の採用試験に求められる学びについて、人文・社会・自然科学の学問領域を幅広く学ぶことを勧めている[18]。

2.1.2　図書館業務関連会社 正社員（図2資格必要・雇用長エリア②）

まれにではあるが、出版社等の図書館業務に関連する会社の正社員の求人で、司書資格が応募資格として必要である求人が出ることがあるので、「資格必要・雇用長」エリアに含めた[19]。
学生への指導について、木内ほか（2011）は、(1) 公務員試験を受け、図書館への異動発令を待つ。(2) 臨時職で就職し、正規職へのチャンスをうかがう。(3) 一般企業に就職し、求人があったらチャレンジする、の3つの選択肢を提示しているが、就職先の一般企業を選ぶ際に図書館業務関連会社の正社員を候補に入れることで、司書資格を活用することができる[20]。

2.1.3　専門図書館 正職員（図2資格必要・雇用長エリア③）

専門図書館とは、「事業の執行機関としての組織の業務実施の支援機能として設けられ、組織の構成員に対するサービスを任務とし、組織の経費負担によって維持される図書館」[21]で、設置者は地方自治体、民間の企業体、研究機関、病院、法人や財団など多様である[22]。そのため、民間の企業体の場合はその親団体（企業）に採用されることが第一になるが、まれに司書としての正職員の採用が出て、司書資格が応募資格として必要である場合があるので、「雇用長・資格必要」ゾーンに含めた[23]。

2.1.4　公立大学 正職員 司書採用（図2資格必要・雇用長エリア④）

公立大学では、公立大学法人の事務職や技術職等の採用とは別途、必要が生じた際に司書採用試験を実施することがある[24]。

2.1.5　私立大学 正職員 司書採用（図2資格必要・雇用長エリア⑤）

私立大学は、図書館職員を一般の大学職員とは別に専門職員として採用するケースはまれであるが、司書資格を有する者が応募資格の求人が出ることがある[25]。

2.1.6　学校司書 正職員（図2資格必要・雇用長エリア⑥）

正規雇用の学校司書を募集している自治体の場合、司書の資格を有する者（取得見込みを含む）に限定して、司書の採用試験を行う。採用されると、県立図書館と県立高校の学校図書館を数年ごとに異動する人事を行っている自治体が存在する。私立学校の場合の採用は、公募か縁故採用かは、学校ごとに異なる[26]。自治体によっては、常勤の学校司書を採用していない場合もあ

る。退職者数に合わせて採用数が決まるため、採用があるかどうかは試験年度によって異なる可能性もある[27]。

2.2.　資格有用・雇用長エリア

図2の右上の資格有用・雇用長エリアには、司書資格が応募資格ではないが、司書資格が役に立つ（有用）場合がある就職先を含めた。以下にそれぞれの就職先の特徴を述べる。

2.2.1　地方公務員　一般採用（図2資格有用・雇用長エリア①）

地方公務員一般採用では、司書資格は不要であるが、司書資格があると、図書館に配属されやすくなったり、図書館の配属期間が長くなる可能性もあるため、採用後に司書資格が役に立つことがある。

2.2.2　図書館業務関連会社　正社員（図2資格有用・雇用長エリア②）

司書課程の元教員は、図書館に関係する就職先として、(1) 図書館業務全般の支援、(2) 図書館システム、(3) 図書館用品･家具･建築･機械、(4) 資料の修復保存等、(5) 取次、(6) 書店等、(7) 印刷、(8) 製紙、(9) データベース、レファレンス資料、(10) 司書資格の教科書出版社等、(11) 学会運営代理、(12) その他（点字出版、大学教員等）を挙げている[28]。実際の就職体験談では「民間企業では第一志望を書店、第二志望を取次会社（書店・図書館と出版社の仲介）、第三志望を出版社とし、他に印刷会社や図書館関係のシステムや人材関係の企業も調べ、受験」した例がある[29]。

これらの殆どで司書資格が応募資格である求人は少なく、さらに採用後も図書館業務に携われるかは流動的ではあるが、図書館に関する業務であれば、図書館についてどの程度学んだのかを司書資格で証明できるし、実際の業務でも役に立つ場合がある。

例えば、丸善CHIホールディングスの図書館サポート事業は、公共図書館、大学図書館を中心とした図書館運営業務の受託、指定管理者制度による図書館運営を行っている[30]。書店と比べ営業利益率が高く、グループ全体でみると図書館事業が大きな収益源となっていることが紹介されている[31]。公共施設等の建設や維持管理等について、民間企業が委託を受けて運営する手法をPPP（パブリック・プライベート・パートナーシップ：公民連携）事業運営と言い[32]、内閣府はPPP/PFIの事業規模目標として、2013～22年で10兆円を掲げており[33]、今後も市場成長が期待されている[34]。丸善CHIホールディングスの有価証券報告書の「経営環境及び優先的に対処すべき課題」には、「図書館サポート事業では、（中略）図書館業務に精通した専門性を引き続き強化していくため、優秀な人材の確保・育成、エリアごとの拠点強化を進めるとともに、グループ外との提携・連携を積極的に推進します」[35]と記載されている。

なお、公共図書館の管理運営の外部化や指定管理者制度の是非については議論が進行中だが、

本稿の目的ではないため割愛する[36]。

2.2.3　国立国会国会図書館（図2資格有用・雇用長エリア③）

国立国会図書館では、人事院の行う国家公務員採用試験とは別に独自の採用試験を実施している。2021年度の職員採用試験では、総合職試験、一般職試験（大卒程度試験）、施設設備専門職員採用試験（大卒程度試験）及び障害者（係員級）採用試験（大卒程度試験）が実施された[37]。受験にさいして「司書」資格の有無は問われないが、専門試験科目に図書館情報学を選択できるため、司書資格で学んだ内容が役に立つため、このゾーンに含めた[38]。2021年度の職員採用試験の競争率は総合職試験121倍（申込者363人、最終合格者3人）、一般職試験63倍（申込者507人、最終合格者8人）と狭き門である。

2.2.4 国立大学法人等　図書系職員（図2資格有用・雇用長エリア④）

国立大学法人等職員の採用試験には事務系（図書）という区分があり、北海道、東北、関東甲信越、東海・北陸、近畿、中国・四国、九州の7つの地区で実施されている[39]。受験の条件に司書の資格は不要だが[40]、専門試験では、図書館学概論、資料組織論、図書館制度・経営論、情報サービス論等が範囲で、司書資格を取得する過程で学んだ知識は試験にも役立つことが採用ウェブサイトにも記載されている[41]。2020年度の採用試験の競争率は、3.4倍であった[42]。

2.2.5 私立大学 正職員（図2資格有用・雇用長エリア⑤）

私立大学は、図書館職員を一般の大学職員とは別に専門職員として採用するケースは稀である。各大学あるいは大学を含む学校法人職員の採用試験を受け、採用後に図書館へ配属されることがある。ただし、司書資格を有していると図書館への異動のチャンスが他の職員よりは高くなることも考えられる[43]。

2.2.6 学校事務（図2資格有用・雇用長エリア⑥）

職務内容を「学校事務（学校図書館事務含む）」として、学校事務の試験区分で職員を募集しているケースでは、司書の資格がなくても受験ができる[44]。このようなケースでは、司書の資格がなくても受験はできるが、実際に、学校図書館事務を担当する際には、司書の資格、つまり司書科目で学んだ内容が有用となる。

2.2.7 文書館　専門職員（図2資格有用・雇用長エリア⑦）

文書館の募集では、図書館情報学等を専攻したこと応募資格となることがある[45]。図書館情報学教育は、一般に司書課程と称される資格付与の課程や、司書講習ならびに司書教諭講習といった資格修得の教育機会も含めて呼ばれている[46]。また、文書館、図書館、博物館、は元来、文化

的、歴史的な情報資源の収集・保存・提供を行う同一の組織であったものが、資料の特性や扱い方の違いに応じて機能分化した一方で、施設の融合や組織間協力を続けてきた背景[47]があるので、司書資格科目で学んだ内容が役立つ可能性がある。

2.2.8 図書館業務関連以外の会社 正社員（図2資格有用・雇用長エリア⑧）

図書館業務関連以外の会社で司書資格が採用に直接影響することは少ない。

司書資格の学びは、一般企業の事務など、図書館以外の分野においても役立ち、図書館の利用や情報検索、子育てなどにも役立つなど、仕事や生活の多様な面で活かされている、という報告もある[48]。

司書課程科目の「生涯学習概論」では生涯学習や社会教育の内容・方法・形態等について、「情報サービス論」では、情報サービスの意義や情報検索サービス等のサービス方法、「情報サービス演習」では、利用者の質問に対するレファレンスサービスと情報検索サービス等について学ぶので、その内容が役立つ可能性がある[49]。

2.3. 「資格必要・雇用短」「資格有用・雇用短」エリア

図2の左下の「資格必要・雇用短」エリアと右下の「資格有用・雇用短」エリアには、いわゆる非正規雇用の求人が含まれる。非正規雇用に含まれる労働者は、パートタイマー、アルバイト、契約社員、派遣社員、請負労働者、など実にさまざまなタイプがある。

求人サイトの求人情報によると、司書資格の必須かどうかは求人により、「司書又は司書補資格を有する方」とある場合や[50]、「司書資格があれば尚良し」や司書資格があることで時給や月給が増えることが記載されている場合がある。

公立図書館の非常勤・臨時職員の雇用期間は単年度契約が通例であり、複数年にわたる雇用の場合も3年あるいは5年で雇い止めになることが多い[51]。また、2017年に地方公務員法が改正され、2020年4月から会計年度任用職員制度が導入されている[52]。この制度により、今までの非常勤職員・臨時職員の大半が会計年度任用職員に移行した[53]。雇用の継続、安定という面では課題も多いが、待遇改善も期待されている[54]。さらに、2021年4月より「短時間労働者及び有期雇用労働者の雇用管理の改善等に関する法律」が施行され、「同一労働同一賃金」のルールが大企業に適用され、図書館の委託、指定管理を受ける企業における非正規雇用職員の待遇改善が期待されている[55]。

学校司書は学校図書館法第6条の改正により、募集の件数は増加したが、その多くは非正規雇用の募集である[56]。

非正規職員の待遇は良くないことは明白で、経済的に厳しい生活になる[57]。そこで、「雇用長・資格有用」エリアの「図書館業務関連以外の会社の正社員」を重点的に狙うことも望まれる。また、「図書館業務関連以外の会社」で司書資格が採用に直接影響することは少ないと考えられる

が、司書科目の「情報サービス論」や「情報サービス演習」等で学んだ内容が役立つ可能性がある。

3.　司書資格を活用した長期的なキャリア形成

図3は、厚生労働省『キャリア・コンサルティング技法等に関する調査研究報告書』[58]の「長期的なキャリア形成のスパイラルイメージ」の図である。キャリア選択のための６ステップ（①自己理解、②職業理解・職務理解、③啓発的経験、④キャリア選択にかかる意思決定、⑤方策の実行、⑥新たな職務への適応）が職業生涯の節目、節目で実施され 、個人のキャリア形成がレベルアップや範囲の広がりを伴いながらスパイラルアップしながら進んでいくことをイメージされている。図3では、キャリア形成の一連のプロセスを一つの輪として描き、労働者が、そのようなプロセスを人生の中で何回か繰り返しながら、職業的な発達を遂げていく様を表現されている。年齢（横軸）とともに輪が大きくなっているのは、キャリア形成の進展の中で、労働者のキャリアが広がっていく（知識・経験の広がりの意味）様子を表している。

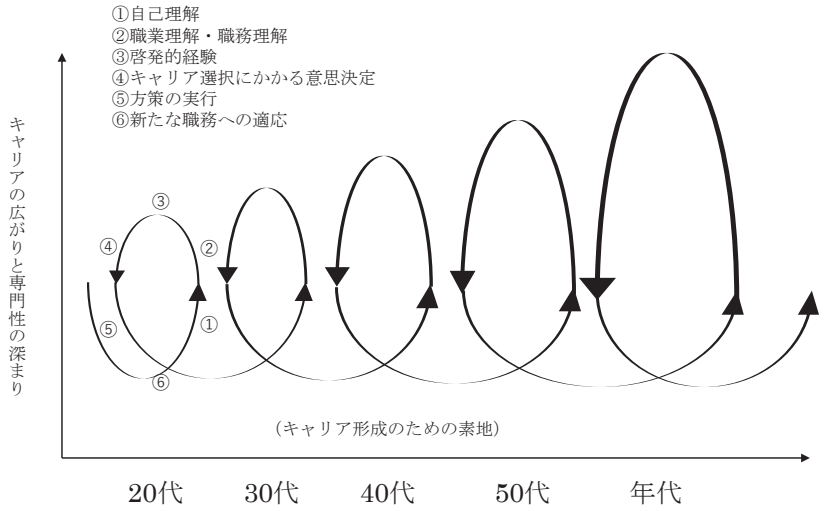

図3　長期的なキャリア形成のスパイラルイメージ

出典：厚生労働省「キャリア・コンサルティング技法等に関する調査研究報告書の概要」[59]

この「長期的なキャリア形成のスパイラルイメージ」の図をもとに作成した、「司書資格を活用した長期的なキャリア形成のスパイラルイメージ」を図4に示す。

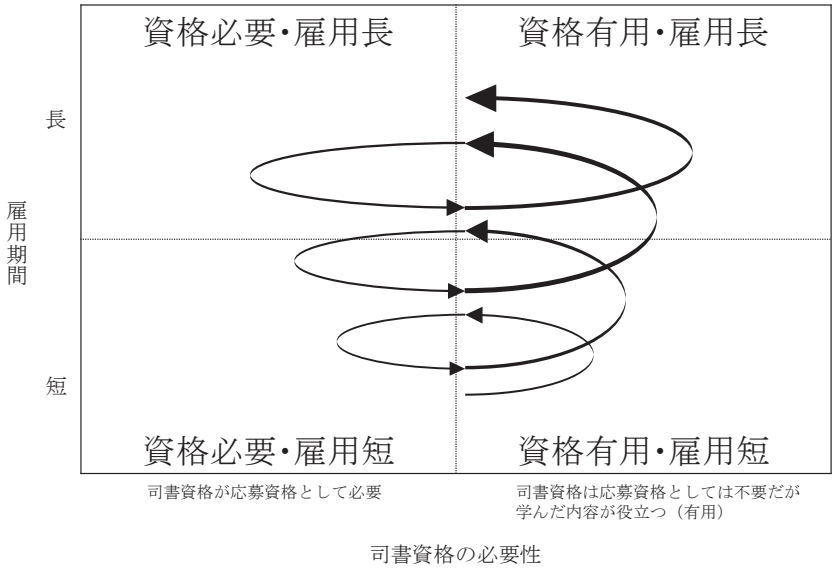

図4　司書資格を活用した長期的なキャリア形成のスパイラルイメージ
出所　筆者作成

新卒時に正社員や正職員の座が獲得できない場合は、「雇用短・資格有用」エリア、「雇用短・資格必要」エリアからスタートして、条件のいい求人を狙っていくルートが考えられる。根本（2021）は、館種によって児童サービスや地域情報、健康医療情報、ビジネス情報、研究データやアーカイブ、外国語の資料、教材や学習コンテンツ、子ども読書といった専門分野を持つことを勧めており[60]、その専門分野はキャリアを広げていく可能性がある。また、図書館員からの転職は、従来の、大学の司書課程教員や、他の自治体・大学への司書としての引き抜き以外にも、近年は有力シンクタンクのデータライブラリアンや、大学の研究支援の専門職（URA）が報告されている[61]。

終身雇用は過去のものになりつつある現在では、司書資格を活用した長期的なキャリア形成のスパイラルイメージが重要になってくる。

4.　おわりに

司書として働きたいと語る学生に難しいと諭すことは簡単である。しかし、難しいと諭すだけでは、学生の支援にはならない。大学教員には、知識の提供者としての役割以外にもモチベーターとしての役割もある[62]。また、学生が教員との関わりがあることが内々定獲得に影響を与え、教員はハブとして学外者と通じることで、学生の新しい異質なソーシャル・ネットワーク形成に

寄与できるという報告[63]もある。さらに、今後は司書資格取得者数が減り、団塊の世代の退職の影響から、数年は比較的、採用はありつつ競争相手の少ない、図書館に就職しやすい時期になるかもしれないという予想もある[64]。実際に司書就職活動を体験した学生（2017年時点）からは、想像以上に募集があると感じた、という感想もある[65]。

非正規化が進む職場では、司書として働きたいという選択肢のみでは、活躍の場が限られている。したがって、学生の司書資格を活用した就職支援では（1）学生の視野（応募業種・応募地域）を広げる、（2）司書資格以外の資格取得や専門分野を学ぶことを勧める、の2点が重要である。そのためには、本稿で示した「図書館司書資格を活用したキャリア形成枠組み」（図2）や「司書資格を活用した長期的なキャリア形成のスパイラルイメージ」（図4）が活用できる。

注

1 丹一信. 図書館就職支援: 図書館司書採用試験対策ゼミからみる課題. 法政大学資格課程年報. 2019, 8, p.7. http://doi.org/10.15002/00022248,（参照 2021-11-19）を参照。

2 木内公一郎ほか. 短期大学生の職業意識の変化: ブライダル専門学生と司書課程学生の比較研究（第一報）. 観光文化研究所所報. 2011, 9, p.3. http://id.nii.ac.jp/1026/00000080/,（参照 2021-11-26）を参照。

3 小松孝則. 特集, 図書館員の養成・就職・再教育: 専修大学司書課程における就職指導, 就職懇談会を中心に. 図書館雑誌. 1998, 92（7）, p.551を参照。

4 山本宏義.“Ⅷ特論　B.多様化する図書館づくり”. 図書館ハンドブック. 日本図書館協会図書館ハンドブック編集委員会編. 第6版補訂2版, 日本図書館協会, 2016, p.439を参照。

5 日本図書館協会.“公共図書館経年変化（1990・91，2000・01，05・06，10―20）”. 日本図書館協会. http://www.jla.or.jp/Portals/0/data/iinkai/chosa/pub_keinen2020.pdf,（参照 2021-11-27）をもとに作成。

6 日本図書館協会図書館調査事業委員会, 日本の図書館調査委員会編集編. 日本の図書館: 統計と名簿 2020. 日本図書館協会, 2021, 24pを参照。非常勤、臨時、痛く・派遣職員は年間実働時間を1人として換算。文部科学省総合教育政策局地域学習推進課.“令和2年度「学校図書館の現状に関する調査」結果について（概要）”. 学校図書館の現状に関する調査結果. 2021-07-29. https://www.mext.go.jp/content/20210727-mxt_chisui01-000016869_02.pdf,（参照 2021-11-27）. 国立国会図書館総務部.“国立国会図書館年報”. 国立国会図書館デジタルコレクション. 2020-12-06. https://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_11585857_po_nen_r1.pdf?contentNo=1,（参照 2021-11-27）.

7 コンデックス情報研究所編. 公務員をめざす人の本: '23年版. 成美堂出版, 2021, p.101を参照。

8 公共図書館と大学図書館は、日本図書館協会図書館調査事業委員会, 日本の図書館調査委員会編集編. 日本の図書館: 統計と名簿 2020. 日本図書館協会, 2021を参照。非常勤、臨時、痛

く・派遣職員は年間実働時間を1人として換算。学校図書館は、文部科学省総合教育政策局地域学習推進課.“令和2年度「学校図書館の現状に関する調査」結果について（概要）”. 学校図書館の現状に関する調査結果. 2021-07-29. https://www.mext.go.jp/content/20210727-mxt_chisui01-000016869_02.pdf,（参照 2021-11-27）を参照。国会図書館は、国立国会図書館総務部.“国立国会図書館年報”. 国立国会図書館デジタルコレクション. 2020-12-06. https://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_11585857_po_nen_r1.pdf?contentNo=1,（参照 2021-11-27）を参照。

[9] 丹一信. 図書館就職支援: 図書館司書採用試験対策ゼミからみる課題. 法政大学資格課程年報. 2019, 8, p.13. http://doi.org/10.15002/00022248,（参照 2021-11-19）を参照。

[10] 丹一信. 図書館就職支援: 図書館司書採用試験対策ゼミからみる課題. 法政大学資格課程年報. 2019, 8, p.5. http://doi.org/10.15002/00022248,（参照 2021-11-19）を参照。

[11] 水戸市立中央図書館編. 水戸市立図書館要覧: 令和3年度. 水戸市立中央図書館, 2021, p.2,p.82を参照。

[12] 文部科学省.“司書について”. https://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/gakugei/shisyo/index.htm#01,（参照 2021-11-05）.を参照

[13] 文部科学省.“司書について”. https://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/gakugei/shisyo/index.htm#01,（参照 2021-11-05）, 後藤敏行. 図書館員をめざす人へ. 勉誠出版, 2016, p59を参照。

[14] 東京都人事委員会. 令和3年度東京都職員Ⅱ類・Ⅲ類採用試験案内. 2021-06-01. https://www.saiyou.metro.tokyo.lg.jp/saiyou2021/annai/2-3/2-3_03annai.pdf,（参照 2021-11-05）を参照。

[15] 資格試験研究会編. 公務員試験オールガイド. 2022年度版, 実務教育出版, 2021, p.342, p.344, p.350を参照。

[16] 日野市.“令和3年度実施 専門職の募集について”. 2021-11-18. https://www.city.hino.lg.jp/shisei/saiyou/shokuin/1018069.html,（参照 2021-11-27）.を参照。

[17] 市原市.“令和3年度第3回職員採用試験 受験案内”. https://www.city.ichihara.chiba.jp/article?articleId=61790751e90a6c48e2bd46a5,（参照 2021-11-27）.

[18] 大庭一郎. 特集, これから図書館で働く人たちへ: 図書館職員の採用試験に求められる学び. 図書館雑誌. 2019, 113（4）, p.203-204を参照。

[19] 例えば、日外アソシエーツ株式会社で応募条件に司書資格を有することが含まれた正社員の求人（出版編集、データベース編集）が出たことがある。日本図書館協会.“日外アソシエーツ 正社員募集”. 2021-10-01 . https://web.archive.org/web/20211022033519/https://www.jla.or.jp/job//tabid/650/Default.aspx?itemid=5984,（参照 2022-01-23）を参照。。

[20] 木内公一郎ほか. 短期大学生の職業意識の変化: ブライダル専門学生と司書課程学生の比較研究（第一報）. 観光文化研究所所報. 2011, 9, p.4. http://id.nii.ac.jp/1026/00000080/,（参照 2021-

11-26）を参照。

[21] "専門図書館", 図書館情報学用語辞典 第5版, JapanKnowledge, https://japanknowledge.com ,（参照 2021-11-23）

[22] 塩見昇, 木下みゆき編. 新編　図書館員への招待. 教育史料出版会, 2020, p.122を参照。

[23] 例えば、2020年4月1日採用予定の情報・システム研究機構統計数理研究所統計科学技術センター技術職員（図書室職員）の募集では、応募要件に司書有資格者であることが含まれていた。

[24] 東京都立大学では、2019年7月1日付けで正規職員の司書職を採用した例がある、塩見昇, 木下みゆき編. 新編　図書館員への招待. 教育史料出版会, 2020, p.116を参照。

[25] 例えば、2018年4月1日採用の学校法人順天堂の募集では司書資格を有する者または取得見込者が応募資格であり、2022年4月1日採用の国立音楽大学専任職員（大学附属図書館）の募集では、応募条件に司書資格を有する方（取得見込含む）が含まれている。国立音楽大学.“学校法人国立音楽大学 専任職員募集要項（大学附属図書館）”. https://www.kunitachi.ac.jp/introduction/employ/library_2021_01.html,（参照 2022-01-23）.

[26] 後藤敏行. 図書館職員採用試験対策問題集司書もん. 第2版, 図書館情報メディア研究会, 2020, p.8-9を参照。後藤敏行. 学校図書館サービス論: 現場からの報告. 樹村房, 2018, p.157を参照。

[27] 後藤敏行. 学校図書館サービス論: 現場からの報告. 樹村房, 2018, p.158を参照。

[28] shibagon.“図書館に関係する会社へ就職ってのはどうだい？”. 図書館のわき道. 2011-04-15. https://toshokannowakimichi.blogspot.com/2011/04/blog-post_15.html,（参照 2021-11-28）.

[29] 齊藤加菜. 就職活動体験記. St. Paul's librarian. 2015, 29, p.17-19. http://id.nii.ac.jp/1062/00011406/,（参照 2022-01-23）を参照。

[30] 丸善CHIホールディングス株式会社.“有価証券報告書”. 丸善CHIホールディングス株式会社. 2021-04-26.

[31] 成相裕幸.“丸善の書店営業利益率が「たったの0.1%」でも経営は安泰の理由”. ダイヤモンド・チェーンストアオンライン. 2021-05-21. https://diamond-m.net/management/83630/,（参照 2021-11-27）を参照

[32] 特定非営利活動法人日本PFI・PPP協会.“PFI・PPPとは”. https://www.pfikyokai.or.jp/about/,（参照 2021-11-28）.

[33] 内閣府.“PPP/PFI推進アクションプラン: 令和3年改定版”. 2021-06-18. https://www8.cao.go.jp/pfi/actionplan/pdf/actionplan2.pdf,（参照 2021-11-28）.

[34] 金融財政事情研究会編.“PPP事業運営”. 第14次業種別審査事典. 金融財政事情研究会, 2020, p.1275を参照。

[35] 丸善CHIホールディングス株式会社.“有価証券報告書”. 丸善CHIホールディングス株式会社. 2021-04-26. https://data.swcms.net/file/maruzen-chi/dam/jcr:e9a0bc66-9a60-4dd7-9344-83dc4f97321f/S100L871.pdf,（参照 2021-11-28）.

[36] 日本図書館協会は、指定管理者制度の導入についての参考として、「公立図書館の指定管理者制度について」を公表している。日本図書館協会.“公立図書館の指定管理者制度について: 2016”. 日本図書館協会. 2016-09-30. http://www.jla.or.jp/Portals/0/data/kenkai/siteikanrikeikai2016.pdf,（参照 2021-11-28）.

[37] 国立国会図書館.“令和3年度国立国会図書館職員採用試験について”. https://www.ndl.go.jp/jp/employ/employ_exam.html,（参照 2021-11-27）を参照。

[38] 国立国会図書館.“国立国会図書館採用Q＆A”. https://www.ndl.go.jp/jp/employ/employ_q_a.html,（参照 2021-11-27）を参照。

[39] 塩見昇, 木下みゆき編. 新編　図書館員への招待. 教育史料出版会, 2020, p.116を参照。

[40] 関東甲信越地区国立大学法人等職員採用試実施委員会幹事会 採用試験事務室.“試験区分「図書」を希望していますが、司書の資格は必要ですか？”. Q&A ¦ 関東甲信越地区国立大学法人等職員採用試験. http://ssj.adm.u-tokyo.ac.jp/faq/,（参照 2021-11-05）, 後藤敏行. 図書館員をめざす人へ. 勉誠出版, 2016, p63を参照。

[41] 東京大学附属図書館. 採用試験FAQ. https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/contents/about/employment/faq,（参照 2021-11-05）を参照。

[42] 資格試験研究会編. 公務員試験オールガイド. 2022年度版, 実務教育出版, 2021, p.154を参照。

[43] 塩見昇, 木下みゆき編. 新編　図書館員への招待. 教育史料出版会, 2020, p.46を参照。

[44] 後藤敏行. 学校図書館サービス論: 現場からの報告. 樹村房, 2018, p.158を参照。

[45] 国立公文書館.“アーキビストの職務基準書”. 2018. http://www.archives.go.jp/about/report/pdf/syokumukijunsyo.pdf,（参照 2022-01-23）.

[46] "図書館情報学教育", 図書館情報学用語辞典 第5版, JapanKnowledge, https://japanknowledge.com ,（参照 2021-11-28）

[47] "MLA連携", 図書館情報学用語辞典 第5版, JapanKnowledge, https://japanknowledge.com ,（参照 2021-11-28）を参照。

[48] 長岡絵里佳ほか. 鳥取短期大学司書課程修了生の意識調査. 鳥取看護大学・鳥取短期大学研究紀要. 2021, 82, p.59. http://doi.org/10.24793/00000320,（参照 2022-01-23）を参照。

[49] これからの図書館の在り方検討協力者会議. 司書資格取得のために大学において履修すべき図書館に関する科目の在り方について. 2009, 14p. https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/__icsFiles/afieldfile/2009/09/16/1243331_2.pdf,（参照 2022-01-23）を参照。

[50] 新宿区立図書館.“令和4年度 新宿区立図書館奉仕員 募集案内”. https://www.library.shinjuku.tokyo.jp/lib/newsfiles/libimg1636411548.pdf,（参照 2022-01-23）を参照。

[51] 松岡要.“Ⅵ図書館職員　C.労働”. 図書館ハンドブック. 日本図書館協会図書館ハンドブック編集委員会編. 第6版補訂2版, 日本図書館協会, 2016, p.375を参照。

[52] 矢野武.“非正規公務員: 日本大百科全書（ニッポニカ）”. JapanKnowledge. 2019-10-18. https://

japanknowledge.com,（参照 2021-11-05）.

[53] 小形亮. 特集, 令和3年度（第107回）全国図書館大会山梨大会への招待：知をつなぐ、甲斐（交ひ）の国から: 会計年度任用職員：職場はどう変わったのか, 第16分科会 非正規雇用職員. 図書館雑誌. 2021, 115（10）, p.640.

[54] 日本図書館協会図書館年鑑編集委員会編. 図書館年鑑. 日本図書館協会, 2021, p.66を参照。

[55] 日本図書館協会図書館年鑑編集委員会編. 図書館年鑑. 日本図書館協会, 2021, p.66を参照。

[56] 丹一信. 図書館就職支援: 図書館司書採用試験対策ゼミからみる課題. 法政大学資格課程年報. 2019, 8, http://doi.org/10.15002/00022248,（参照 2021-11-19）.p.6を参照。

[57] 丹一信. 図書館就職支援: 図書館司書採用試験対策ゼミからみる課題. 法政大学資格課程年報. 2019, 8, http://doi.org/10.15002/00022248,（参照 2021-11-19）.p.12-13を参照。

[58] “キャリア・コンサルティング技法等に関する調査研究報告書の概要”. 厚生労働省. 2001-05-17. https://www.mhlw.go.jp/houdou/0105/h0517-3.html,（参照 2021-11-28）を参照。

[59] 厚生労働省.“キャリア・コンサルティング技法等に関する調査研究報告書の概要”. 2001-05-17. https://www.mhlw.go.jp/houdou/0105/h0517-3.html,（参照 2021-11-28）を参照

[60] 根本彰. 特集, 図書館員養成100周年: 図書館情報専門職養成のこれまでとこれから. 図書館雑誌. 2021, 115（5）, p. 271を参照。

[61] 福島幸宏. 特集, 図書館の未来: これからの図書館員像, 情報の専門家/地域の専門家として. 現代思想 46（18）, 172-180, 2018-12. 2018, 46（18）, p.179を参照。

[62] 佐藤浩章編. 講義法. 玉川大学出版部, 2017,（シリーズ大学の教授法, 2）. p.68-69を参照。

[63] 平尾智隆.“教員の就職活動へのかかわり方”. 大学生の内定獲得. 梅崎修, 田澤実編. 法政大学出版局, 2019, p.57-73を参照。

[64] 佐藤翔. かたつむりは電子図書館の夢をみるか LRG編（第12回）就職戦線異状あり?: 空前の人手不足市場における図書館情報学徒の就職状況…はよくわからないけれど、司書資格取得者はたぶん今後、減る. Library Resource Guide. 2019, 29, p.144を参照。

[65] 伊草祥子. 司書就職活動体験記 . St. Paul's librarian. 2017, 31, p.77. http://id.nii.ac.jp/1062/00015004/,（参照 2021-11-25）.を参照。

参考文献

伊草祥子. 司書就職活動体験記 . St. Paul's librarian. 2017, 31, p.77-78. http://id.nii.ac.jp/1062/00015004/,（参照 2021-11-25）.

市原市.“令和3年度第3回職員採用試験 受験案内”. https://www.city.ichihara.chiba.jp/article?articleId=61790751e90a6c48e2bd46a5,（参照 2021-11-27）.

木内公一郎ほか. 短期大学生の職業意識の変化: ブライダル専門学生と司書課程学生の比較研究（第一報）. 観光文化研究所所報. 2011, 9, p.1-25. http://id.nii.ac.jp/1026/00000080/,（参照 2021-

11-26）.

小形亮. 特集, 令和3年度（第107回）全国図書館大会山梨大会への招待 : 知をつなぐ、甲斐（交ひ）の国から: 会計年度任用職員 : 職場はどう変わったのか, 第16分科会 非正規雇用職員. 図書館雑誌. 2021, 115（10）, p.640.

大庭一郎. 特集, これから図書館で働く人たちへ: 図書館職員の採用試験に求められる学び. 図書館雑誌. 2019, 113（4）, p.202-206.

関東甲信越地区国立大学法人等職員採用試実施委員会幹事会 採用試験事務室.“試験区分「図書」を希望していますが、司書の資格は必要ですか？”. Q&A ¦ 関東甲信越地区国立大学法人等職員採用試験. http://ssj.adm.u-tokyo.ac.jp/faq/,（参照 2021-11-05）.

木内公一郎ほか. 短期大学生の職業意識の変化: ブライダル専門学生と司書課程学生の比較研究（第一報）. 観光文化研究所所報. 2011, 9, p.1-25.

金融財政事情研究会編.“PPP事業運営”. 第14次業種別審査事典. 金融財政事情研究会, 2020, p.1275-1283.

厚生労働省.“キャリア・コンサルティング技法等に関する調査研究報告書の概要”. 2001-05-17. https://www.mhlw.go.jp/houdou/0105/h0517-3.html,（参照 2021-11-28）.

国立音楽大学.“学校法人国立音楽大学 専任職員募集要項（大学附属図書館）”. https://www.kunitachi.ac.jp/introduction/employ/library_2021_01.html,（参照 2022-01-23）.

国立国会図書館.“国立国会図書館採用Q&A”. https://www.ndl.go.jp/jp/employ/employ_q_a.html,（参照 2021-11-27）.

国立国会図書館.“令和3年度国立国会図書館職員採用試験について”. https://www.ndl.go.jp/jp/employ/employ_exam.html,（参照 2021-11-27）

後藤敏行. 学校図書館サービス論: 現場からの報告. 樹村房, 2018, 164p.

後藤敏行. 図書館員をめざす人へ. 勉誠出版, 2016, 228p.

後藤敏行. 図書館職員採用試験対策問題集司書もん. 第2版, 図書館情報メディア研究会, 2020, 113p.

小松孝則. 特集, 図書館員の養成・就職・再教育: 専修大学司書課程における就職指導, 就職懇談会を中心に. 図書館雑誌. 1998, 92（7）, p.551

これからの図書館の在り方検討協力者会議. 司書資格取得のために大学において履修すべき図書館に関する科目の在り方について. 2009, 14p. https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/__icsFiles/afieldfile/2009/09/16/1243331_2.pdf,（参照 2022-01-23）

コンデックス情報研究所編. 公務員をめざす人の本: '23年版. 成美堂出版, 2021, 215p.

齊藤加菜. 就職活動体験記. St. Paul's librarian. 2015, 29, p.17-19. http://id.nii.ac.jp/1062/00011406/,（参照 2022-01-23）.

佐藤翔. かたつむりは電子図書館の夢をみるか LRG編（第12回）就職戦線異状あり?: 空前の人手

不足市場における図書館情報学徒の就職状況…はよくわからないけれど、司書資格取得者はたぶん今後、減る. Library Resource Guide. 2019, 29, p.138 -145.

佐藤浩章編. 講義法. 玉川大学出版部, 2017, 208p.,（シリーズ大学の教授法, 2）.

shibagon.“図書館に関係する会社へ就職ってのはどうだい？”. 図書館のわき道. 2011-04-15. https://toshokannowakimichi.blogspot.com/2011/04/blog-post_15.html,（参照 2021-11-28）.

塩見昇, 木下みゆき編. 新編　図書館員への招待. 教育史料出版会, 2020, 182p.

資格試験研究会編. 公務員試験オールガイド. 2022年度版, 実務教育出版, 2021, 426p.

新宿区立図書館.“令和4年度 新宿区立図書館奉仕員 募集案内”. https://www.library.shinjuku.tokyo.jp/lib/newsfiles/libimg1636411548.pdf,（参照 2022-01-23）.

東京都人事委員会. 令和3年度東京都職員Ⅱ類・Ⅲ類採用試験案内. 2021-06-01. https://www.saiyou.metro.tokyo.lg.jp/saiyou2021/annai/2-3/2-3_03annai.pdf,（参照 2021-11-05）.

文部科学省. 司書について. https://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/gakugei/shisyo/index.htm#01,（参照 2021-11-05）.

福島幸宏. 特集, 図書館の未来: これからの図書館員像, 情報の専門家/地域の専門家として. 現代思想 46（18）, 172-180, 2018-12. 2018, 46（18）, p.172-180.

丹一信. 図書館就職支援: 図書館司書採用試験対策ゼミからみる課題. 法政大学資格課程年報. 2019, 8, p.5-15. http://doi.org/10.15002/00022248,（参照 2021-11-19）.

東京大学附属図書館. 採用試験FAQ. https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/contents/about/employment/faq,（参照 2021-11-05）.

特定非営利活動法人日本PFI･PPP協会.“PFI･PPPとは”. https://www.pfikyokai.or.jp/about/,（参照 2021-11-28）.

内閣府.“PPP/PFI推進アクションプラン: 令和3年改定版”. 2021-06-18. https://www8.cao.go.jp/pfi/actionplan/pdf/actionplan2.pdf,（参照 2021-11-28）.

長岡絵里佳ほか. 鳥取短期大学司書課程修了生の意識調査. 鳥取看護大学・鳥取短期大学研究紀要. 2021, 82, p.49-62. http://doi.org/10.24793/00000320,（参照 2022-01-23）.

成相裕幸.“丸善の書店営業利益率が「たったの0.1%」でも経営は安泰の理由”. ダイヤモンド・チェーンストアオンライン. 2021-05-21. https://diamond-m.net/management/83630/,（参照 2021-11-27）.

日本図書館協会.“公立図書館の指定管理者制度について: 2016”. 日本図書館協会. 2016-09-30. http://www.jla.or.jp/Portals/0/data/kenkai/siteikanrikeikai2016.pdf,（参照 2021-11-28）.

日本図書館協会.“日外アソシエーツ 正社員募集”. 2021-10-01 . https://web.archive.org/web/20211022033519/https://www.jla.or.jp/job//tabid/650/Default.aspx?itemid=5984,（参照 2022-01-23）.

日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編. 図書館情報学用語辞典. 第5版, 丸善出版,

JapanKnowledge, https://japanknowledge.com ,（参照 2021-11-23）.

日本図書館協会図書館調査事業委員会, 日本の図書館調査委員会編. 日本の図書館: 統計と名簿 2020. 日本図書館協会, 2021, 517p.

日本図書館協会図書館ハンドブック編集委員会編. 図書館ハンドブック. 第6版補訂2版, 日本図書館協会, 2016, 694p.

日本図書館協会図書館年鑑編集委員会編. 図書館年鑑. 日本図書館協会, 2021, 567p.

根本彰. 特集, 図書館員養成100周年: 図書館情報専門職養成のこれまでとこれから. 図書館雑誌. 2021, 115（5）, p.268-271.

日野市.“令和3年度実施 専門職の募集について”. 2021-11-18. https://www.city.hino.lg.jp/shisei/saiyou/shokuin/1018069.html,（参照 2021-11-27）.

平尾智隆.“教員の就職活動へのかかわり方”. 大学生の内定獲得. 梅崎修, 田澤実編. 法政大学出版局, 2019, p.57-73.

水戸市立中央図書館編. 水戸市立図書館要覧: 令和3年度. 水戸市立中央図書館, 2021, 83p.

文部科学省.“司書について”. https://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/gakugei/shisyo/index.htm#01,（参照 2021-11-05）.

内閣府.“PPP/PFI推進アクションプラン: 令和3年改定版”. 2021-06-18. https://www8.cao.go.jp/pfi/actionplan/pdf/actionplan2.pdf,（参照 2021-11-28）.

（6）　後に小波自身、「こがね丸」発表当時を振り返って、「八犬伝と狐の裁判とを、なひまぜにした位の陳腐なものだが、これでも当時は珍しかつたので、ここに始めて私の立場に、小さいながらも礎石をすえ得たのである」と述べている（「おとぎ四十年」〈一九三〇（昭和五）年『朝日新聞』〉）。

（7）　『宝の蔵』は後に合冊や分冊などを経ているが、本稿では初出のものを扱うこととする。

（8）　渡辺賢治「明治期の『児童文学』と仏教思想―露伴文学を視座として―」（二〇二一（令和三）年十一月『解釈学』第九十三輯）、四九―五五頁。

（9）　二〇一一（平成二十三）年二月 平凡社、一二〇―一二一頁。

（10）　初出と所収の間において収載形式の差異が認められる。所収された単行本の形式は以下のように収載されている。

・『さゝ舟』（一八九五（明治二十八）年十二月 青木嵩山堂）〈「さゝ舟」「うすらひ」「つゆくさ」「荷葉盃」を収載、ただし「蹄鐵」は除かれている〉

・『きくの濱松』（一八九六（明治二十九）年二月 青木嵩山堂）〈「きくの濱松」の「其三十七」までを収載〉

・『ひとり寝』（一八九六（明治二十九）年五月 青木嵩山堂）〈「きくの濱松」の「其三十八」以下の内容と「さんなきぐるま」、「あがりがま」の「其十一」までを収載〉

・『雲の袖』（一八九六（明治二十九）年八月 青木嵩山堂）〈「あがりがま」の「其十二」以下の内容を収載〉

後に「風流微塵蔵」後編として『もつれ糸』（一九〇二（明治三十五）年二月 青木嵩山堂）が発表されており、田村松魚との合著だが実際は松魚の執筆である。

（11）　一九四三（昭和十七）年二月 岩波書店、二〇三頁。

（12）　明治三十年代における露伴の執筆状況は、小説も含め当代文学でさほど注目される作品を発表していない。だが、作品の低調さは露伴に限ったことではなく、明治三十年代初頭の文壇全体にわたっており、自然主義前夜の沈滞期であったことが挙げられる。それは一八九九（明治三十二）年一月に『文学界』が第五十八号をもって廃刊になったことを始め、同年十月には『早稲田文学』の廃刊、また翌年には『国民之友』が廃刊していることからも証左される。いわば一つの時代の終焉の象徴と言えるだろう。背景には日清戦争後の帝国主義の国策推進が挙げられ、社会的矛盾の増大に伴う思想的対立の深刻さが文壇にも波及しており、現実社会への視野の拡大は急務となっていた。

（13）　年譜作成に当たっては『露伴全集』別巻下（一九八〇（昭和五十五）年三月 岩波書店）の「幸田露伴著作年表」（巻末）、並びに前掲関谷博『幸田露伴の非戦思想』の「露伴〈少年文学〉年次別一覧表」（四四―四五頁）を参照した。

（14）　『幸田文全集』第二十三巻（一九九七（平成九）年二月 岩波書店）の「年譜」（巻末）参照。

（15）　「六十日記第一」（『露伴全集』第三十八巻収載、一九七九（昭和五十四）年十一月岩波書店）、五七―五八頁。

（16）　一九八三（昭和五十八）年九月 岩波書店、七二頁。

（17）　注（16）に同じ、一三八頁。

（18）　柳田泉はこうした露伴の文体を「連環体」と呼び、縁起や因縁を根幹に据えて集大成されたのが「連環記」であった。

※露伴作品の引用文については、第二次『露伴全集』（岩波書店）に拠り、ルビはパラルビを付すに留めた。

と生み出されていく。当時の文壇で有名になった芥川龍之介や有島武郎、宇野浩二といった作家たちも童話を発表し、童話作家の小川未明や坪田譲治、さらには童謡詩人の北原白秋、西条八十、野口雨情といった面々も多くの作品を発表することとなる。

おわりに

冒頭で述べたように、明治期において「児童文学」といった言葉は未だ存在せず、「お伽噺」といった形で児童向けの作品が巌谷小波の『こがね丸』を契機に浸透していった。露伴も『宝の蔵』からうかがえるように、主人公の大半を動物として登場させるなど、小波への意識がうかがえる。『宝の蔵』と同時期に発表した「風流微塵蔵」における物語の形式や内実に関しても、互いに連動している点が挙げられる。もちろん両者は少年文学と一般向けの小説であり、そこに差異が生じることは言うまでもない。それでも若者への「思考」や「問い」を軸とした啓発誘導（『宝の蔵』）や、若者自ら人生の紆余曲折や煩悶葛藤を経ながら進み、考え（思考）、生き方を問うていく壮大な物語（「風流微塵蔵」）の描写からは、露伴の少年文学を通しての若者への関心や意識が共通項として「蔵」されていたと考えられる。併せて、露伴文学の特徴でもある仏典に依拠した語句も認められる。

大正時代に入ると、当代社会の変化とともに次第に少年文学作品は実業奨励的な内容となり、発表数も少なくなっていく。そこには露伴の身辺事情も相まっていることは既に述べた通りである。

後年、露伴は「連環記」（一九四一（昭和十六）年）を発表するが、この作品では、登場人物たち（児童ではなく大人だが）が各話それぞれ数珠繋ぎのように連環しており、[18]「縁起」や「運命」に生きる人間の姿が創出されていく。「風流微塵蔵」で構築された枠組みが反映されているものと考えられ、後期露伴文学にまで接続する要素が明治二十年代半ばには胚胎していたこともうかがえる。

その他、明治四十年代に展開した口演童話に関しても、露伴自身、直接的発言は見当たらないものの、露伴のお伽噺に対する言及（前掲「お伽噺に関する余の意見」）や娘・文の回想（前掲『みそっかす』）から、「児童文学」への意識も認められる。

露伴研究において、未だ児童文学との関連から本格的に論じられているものは少ない。本稿の考察から導き出されたことを踏まえ、露伴文学における「児童文学」の位置づけをより明らかにすべく今後の研究課題としたい。

注

（1）巌谷小波「少年文学の将来」（一九〇九（明治四十二）年）参照。

（2）明治期以前、すなわち江戸時代においては、子どもたちはそれほど大人と区別されることもなかった。彼らの楽しみや共同体の知恵を学ぶためには、伝承文芸から発展してきた昔話や、わらべうた等が中心であった（「日本の子どもの文学」ＨＰ参照）。https://www.kodomo.go.jp/jcl/section1/index.html（二〇二一（令和三）年十月二十三日閲覧）

（3）鳥越信編著『はじめて学ぶ 日本児童文学史』（二〇〇二（平成十四）年四月 ミネルヴァ書房）、三四―三五頁。

（4）川端有子『児童文学の教科書』（二〇一三（平成二十五）年二月 玉川大学出版部）、四〇―四一頁。

（5）前掲川端有子『児童文学の教科書』、四一―四二頁。

直接、口演童話に対する言及ではないが、お伽噺に対して露伴は「極て平々凡々の考よりほかには、何等の考も持って居」ないことを述べた上で、第一から第三までの大綱を提示している。具体的には、興味や面白さを惹起させることや過度の刺激や恐怖心を与えないこと、そして上品かつ簡潔な言葉の使用を求めている。とりわけ第三に関しては口演童話を展開する上で、ともすると陥りがちな部分であろう。もちろん露伴は、口演童話を否定しているわけではなく、むしろ自身の子育てにおいて実践してきたことが次女・文の回想から垣間見られる。次に挙げるのは、幸田文『みそっかす』[16]の一部分である。

父は姉に桃太郎の話を聞かせてやった。鬼がさんざんに負けて、桃太郎は宝物を持って詔旋する。姉はわっと泣きだした。何を泣くのだがわからない。「鬼がかわいそうだ」といったというのである。「おれはあわてたよ」と私に話し、「在来のお伽噺は再考しなくてはならない。おまえも鬼の話は娘には聞かすな」と注意してくれた。これは私にはよくわかる。すばらしく話のうまい父だから、かわいそうに姉は子供のくせに、敗者の哀感をさとらされてしまったのだろうと思う。

露伴は長女・歌に対し、桃太郎の話を聞かせたところ突然泣き出したため慌てたという。文はその様子を通して「すばらしく話のうまい父だから、かわいそうに姉は子供のくせに、敗者の哀感をさとらされてしまったのだろう」と述べている。露伴自身の語り、つまり口演童話のリアリティさを発揮していることが読み取れる。

また、前掲『みそっかす』[17]では次のような点も述べられている。

父はおはじき・お手玉・ままごとの料理遊び・振り将棋・トランプ、何でも器用に遊んでくれた。（中略）何よりも私の好むものは父の話だった。継母は継母で、二人の子に聖書を説いてくれた。アブラハムとイサクの話、ノアの方舟の話、ダビデの話。父の話のようにおもしろくはなかったが、また趣の違ったものがあった。

子どもの遊び全般を娘である文とともに楽しんでいたようである。そして文は「何よりも私の好むものは父の話だった」ことを挙げており、継母の話よりも面白かったらしい。この継母というのは、先妻幾美の没後、明治四十五年に結婚した児玉八代を指す。キリスト教を熱心に信仰しており、そうした経緯から文には聖書に由来する話をしていたわけである。文の回想からは、露伴が子どもに対して巧みな話をしていたことがうかがえる。

以降、大正時代に入り、児童文学は「童話」の時代を迎え、『赤い鳥』の創刊となる。『赤い鳥』創刊号には、「『赤い鳥』は（中略）子供の純性を保全開発するために、現代第一流の芸術家の真摯なる努力を集め、兼て、若き子供のための創作家の出現を迎うる、一大区画的運動の先駆である」ことが述べられている。「子供の純性」という言葉に大正期の児童観が表出していると言えるだろう。この頃の露伴は既に小説の執筆から遠ざかっており、「露伴学人」や「露伴道人」といった筆名で学究世界に重きを置いていた。

『赤い鳥』に続いて、複数の児童雑誌が刊行されるのだが、いずれも子どもの「童心」を描くことを主眼とした童話や童謡が次々

製未来記」（一～十二月『実業少年』、後に「番茶会談」と改題され『立志立功』〈一九一五（大正四）年〉に収載）では、実業奨励的な作品の代表作であり、何事も結果だけではなくそこに到るまでのプロセスが重要であることや、大きな物事を望む場合、身近な小さな物事から始めるなどの教訓が示されている。「未来記」という題名の如く、突飛かつ面白い内容も含まれており、題名の角書きにある「滑稽」という意味も首肯しうる内容となっている。

大正時代に入ると、露伴は少年文学に関する作品の発表が途絶えてしまう。その確たる理由は不明だが、明治初期に掲げた富国強兵や殖産興業、教育の確立と普及が一定程度、確立したことは挙げられよう。また、日清・日露戦争を経験し、欧米列強に対抗しうる近代化が成された日本において、昔時の少年たちも明治四十年代には日本を支える存在にまで成長している。露伴の果たすべき役割も一区切りついたものと推察される。その他、露伴自身の身辺事情の影響も注目すべきであろう。それは京都帝大講師就任（一九〇八（明治四十一）年）、文学博士号の授与（一九一一（同四十四）年）、妻子の死（一九一〇（同四十三）年、一九一二（同四十五）年）といった大きな変化や悲痛事である。

露伴の妻・幾美は、明治四十三年四月八日に三十六歳で病没した。明治二十八年の結婚を機に約十五年にわたる夫婦生活であったが、その間に夫婦には長女歌（一九〇一（明治三十四）年一月二十四日生）、次女文（一九〇四（同三十七）年九月一日生）、長男成豊（一九〇七（同四十）年二月四日生）の三人の子がもうけられた[14]。三人の幼い子供を残した状態で妻・幾美を失ったことはこの上ない痛恨の極みであったと言えるだろう。明治四十三年七月十六日の日記には[15]「妻亡ひて既に百日、光陰矢の逝くがごとく悲哀巌の存するがごとし」というように、露伴は悲嘆に暮れる思いを吐露している。妻を失って以降、露伴は必然的に家庭の雑事にも目を向けることになる。そうした中、今度は明治四十五年五月に長女・歌を僅か十一歳で夭逝してしまう。露伴は約二年の間に妻と子の二人を失ってしまったのである。

こうした複合的な要因も相まって、露伴の少年文学への作品発表は一区切りをつける形となったことも想定される。明治四十年代、先に挙げた巌谷小波は口演童話を積極的に推進し、全国各地へと普及し始めた時期であった。小波のこうした展開を意識しているのか不明だが、露伴は「お伽噺に関する余の意見」（一九〇七（明治四十）年六月『少年世界』）において、次のように述べている。

> お伽噺に対して、私は特殊の意見といふやうなものを抱いては居りませぬ。極て平々凡々の考よりほかには、何等の考も持って居ませぬ。（中略）
>
> さて平凡の見として、お伽噺に対して、第一には興味あるといふ事、即ちおもしろいといふ感じを児童に惹起させるといふ事を請求する。第二には、過度の刺戟を与へる事を避けて貰ひ度いといふ事を主張する。即ちこれを聞いた児童をして、其夜寝魘えをしたり、無益な恐怖心を発したりするに至らしむるやうな、甚だしい残酷や、悲惨毒悪な談話は寧ろ止めて貰ひ度い。第三には、上品な簡潔な言葉によつて其物語の伝へられんことを請求する。余り談話を巧みにせんとするの結果として下劣な言語の用いらるるに至らんことは、児童にとりて甚だ忌むべき嫌ふべき影響を与ふる事と信じますので、此の一箇條を加へました。猶微細に申せば際限がありませぬが、大綱はこれだけです。

三．「児童文学」に対する露伴の意識―身辺状況などから―

明治二十年代において、露伴は小説と並行して少年文学作品も発表してきたが、それは三十年代[12]に入り徐々に減少していく。発表自体、四十年代まで続いてはいるのだが、作品の内実は変化しており、実業社会向けの内容となっている。また、簡単なアンケートやインタビュー、随想といったものが多くなっており、物語自体の数はかなり減少している。以下、明治四十年前後から大正元年頃まで、露伴の児童向け雑誌に発表した作品を年譜にまとめると次のようになる。[13]

【一九〇五（明治三十八）年】
該当なし
【一九〇六（明治三十九）年】
・「二十余年前の小私塾」（六月『中学文芸』）
・「青年時代と娯楽」（八月『中学世界』）
・「一切の書籍」（九月『中学世界』）※アンケートの回答
【一九〇七（明治四十）年】
・「お伽噺に関する意見」（六月『少年世界』）※アンケートの回答
【一九〇八（明治四十一）年】
・「幼年時代」（一月『少年世界』）※アンケートの回答
・「甘味の三世（砂糖の過去と現在と未来）」（三月『実業少年』）
・「文壇諸名家雅号の由来」（十一月『中学世界』）
【一九〇九（明治四十二）年】
該当なし
【一九一〇（明治四十三）年】
・「紙鳶遊び」（六月『少年界』）
【一九一一（明治四十四）年】
・「滑稽 御手製未来記」（一～十二月『実業少年』）
・「幼児の読書」（三月『日本少年』）
・「おどけ噺　無駄口しゃべ子」（九月『少年文学』）※講演筆記
・「曾我兄弟」（九月『日本少年』）
・「おまじなひのたね」（九月『小学生』）
・「剣客物語　日本無双」（十月『中学世界』）
【一九一二（明治四十五／大正元）年】
・「供食会社」（一月『実業少年』）
・「前田利家」（一月『中学世界』）
・「芥子大黒」（二月『実業少年』）
・「草荒を広めた恩人」（三月『小学生』）
・「人世の万事を予知すべき道具」（三月『実業少年』）
・「小農園」（五月『実業少年』）
・「磐根水之助自伝」（七月『実業少年』）
・「米価問答」（八月『実業少年』）

このように、作品の発表自体は明治末期まで認められるのだが、掲載雑誌は主に『実業少年』が中心となっている。その他『中学世界』や『小学生』、『少年文学』といった雑誌も散見されるが、『実業少年』への掲載数が多く、それに連動して実業奨励的な枠組みの中での、青少年の身の処し方といった内容が色濃く描かれている。

例えば、一九一一（明治四十四）年に発表された「滑稽 御手

また、各作品からは「会者定離」（出会う者には必ず別れがあるという意、原典は『遺教経』）の理と共に人と人との縁から起こる事象、すなわち縁起の理法といった特徴が認められる。ただし「風流微塵蔵」自体が未完である以上、新三郎とお小夜を中心とする物語が今後いかなる展開を経て、その他の人物達と交錯するのかは未詳である。

柳田泉は『幸田露伴[11]』で露伴直話として「風流微塵蔵」の構成を次のように伝えている。

自分が當時腹稿として立てたものの記憶をいふと、子ども時代に無邪気に好き合つてゐた二人は、やがて種々な運命を經て青年としてめぐり合ふ、さうして二人の間に昔とは違ふ情緒のものが生する、そのためにいはゆる人生の苦杯を敢て嘗めさせられ、悲惨な經路をいろいろと經てわづかに解脱安住の地に至る、といったことになるのだ。それだから新三郎の十八九からが漸く本舞臺に入るので、その前は皆序品だけだ。本舞臺に入ると、この序品でばらばらに思はれてゐた人物も出來事も、それぞれ新三郎お小夜二人の運命に絡らんでまた出て來ることになる。

「種々な運命を經て青年としてめぐり合ふ」「新三郎の十八九からが漸く本舞臺に入る」といった部分から、「さゝ舟」から「みやこどり」まで発表された内容は「皆序品」であったと考えられる。露伴が描いていた「風流微塵蔵」は広大な世界であったことは間違いない。さらに右引用文の続きで柳田は露伴直話として、登場人物のモデルについて「新三郎といふ性格には、自分の極く遠い知り合ひの或る人が幾分モデルみたいに借りられてゐる。然しこの人は、（中略）無事平凡にこの世を送つたので、そこは小説とは全然違ひます」と述べており、実在した人物の生涯を描いたわけではないらしい。お小夜、お静、栽松道人、正太郎、お初、久四郎、喜藏、おこの、雲雄、文といった各話での登場人物たちも同様であることが述べられている。露伴は実在の人物の生涯を直写して書いたわけではないようである。

「風流微塵蔵引」で示したように、露伴の求める「風流微塵蔵」世界というのは内面における「雲のごときもの」「黯々たる夜の如きもの」、つまり自身の「蔵」する思念を経にも線にも繋ぎかねた広大な思念を「蔵」する内面世界の提示であった。そこには各々の登場人物が縁起や別離を経験して生き抜く姿が描かれており、縁起の理法つまり「會者定離」の理が作品全体に通底している。『宝の蔵』では少年文学作品として若者に「『問ひ』」や「『思考』」を提示し、倫理観や道徳、仏典を軸に啓発誘導を行っているが、その一方で、同時期に書かれた「風流微塵蔵」では幼い新三郎とお小夜といった若者たちが成長する過程を描写し、自らの人生での縁起や別離を重ね煩悶葛藤しながら生きていく、いわば人生全体に対する考え（思考）や問いが示されているようにも読み取れる。同時期に発表されたことを鑑みると、少年文学作品と小説にはそれぞれ連動する意識を露伴が「蔵」していた可能性が考えられるのである。

少年文学である『宝の蔵』では全十五の物語が一人の翁によって語られ、仏教説話における教訓や世俗的倫理観といった主眼を中心に展開していく。そして総題として『宝の蔵』といった題名が付されている。一方、「風流微塵蔵」においても語り手の翁はいないものの、各物語世界の総題として「風流微塵蔵」といった題名が付されており、その形式は『宝の蔵』と重なるのである。

ざるなり。（中略）乃ち之を称して蔵となす。蓋し我が心に得るある再々たる雲のごときもの、我が筆に発するところの黒々たる夜の如きものの中に蔵せられて、而して後奕々冥々半明半暗僅に存するの意に取るのみ。

ここでは「経」と「線」に譬えつつ、自らの執筆は「蔵」であることを示している。「蔵」と称した意図については「我が心に得るある再々たる雲のごときもの」「我が筆に發するところの黯々たる夜の如きものの中に藏せられて」云々と述べている。さらに「微塵蔵」とした意義については、次のように述べている。

蔵を標するに微塵を以てするは、其極めて小なること猶一微塵のごとくなると、兼ては華厳に所謂破塵出経巻の義とに取るなり。たゞ我浄慧浄眼の人にあらず、量三千界に等しきの大経巻を一微塵中に見る能はず、すなはち風流の二字を冠して具四大願の諸仏諸聖が見るところのものに潜する無く、単に凡眼を以て微塵を照破し品花評月の小文字を羅織し出すに止まるものなることを明かにす。

右引用文から露伴は『華厳経』の「破塵出経巻」を参照していることがうかがえる。その他、『大方広仏華厳経』の「廬舎那仏品」（第二の二）の冒頭、普賢菩薩が蓮華蔵世界を聴衆に分別し開示する言葉にも重なっている。このことは次に挙げる『国訳大蔵経』第五巻から証左される。

諸の仏子よ、当に知るべし、此の蓮華蔵世界海は、是れ廬舎那仏、本菩薩の行を修せし時、阿僧祇の世界に於て微塵数劫に厳浄したまひし所なり。此の劫に於て、世界の微塵に等しき如来を恭敬し、供養したてまつり、一一の仏の所にて、世界海微塵数の願行を修したまひしなり。

「蔵」「海」「微塵」「微塵数」といった内容からは広大な世界観が示されている。露伴は先に挙げた「風流微塵蔵引」において自身の内面を文として綴るにあたり、「脂那」（支那）の「経」や「西天」（西洋）の「線」とも呼びかね「蔵」と称している。内面における「雲のごときもの」「黯々たる夜の如きもの」、つまり自身の「蔵」する思念を経にも線にも繋ぎかねており、いわば広大な思念を「蔵」する内面世界の提示であった。

加えて、露伴は先の引用において「浄慧浄眼の人にあらず」と述べており「風流の二字を冠して」「單に凡眼を以て微塵を照破し品花評月の小文字を羅織し出す」に止まるとしている。自身は知恵も眼力も不十分なため花や月の品評に甘んじて小文字を「羅織し出す」に留まるため「風流」の二字を小説の題名に付したというのである。いずれにせよ、「風流微塵蔵引」では広大な内面世界の提示がここに予告されている。

「風流微塵蔵」にはいくつかの題名が付されていることは先に述べたが、それは大きく分けると四つの物語から成り立っている。「さゝ舟」「うすらひ」「つゆくさ」「蹄鐵」「荷葉盃」が木更津青柳家の物語（千葉）、「きくの濱松」が九州小倉の物語（福岡）、「さんなきぐるま」が東京市内の物語（東京）、「みやこどり」が浦和鹿手袋の物語（埼玉）となっている。これらの構成から見出される特徴として、各物語に登場する人物が他の物語においても登場し、交差していくことである。そうした中において、物語は幼い新三郎とお小夜を中心に、徐々に成長を遂げ展開していく。

童謡」（一八九三（明治二十六）年六月三十日、七月一日付『国会』）という批評の冒頭部分である。

われ聊か思ふところありて去冬より今春へかけ新古を問はず現存せる童謡を蒐集せしが、もとより勢力無き一箇人の資格を以てせしことなれば意を満たすに足るほどは蒐め得ざりしも、各地方より落手せしもの敷百首に下らず。（中略）今はただここに二つ三つ其中に就て、興あるものの我等には耳ふりて聞えざるを取り出でて少しく評し、また面白がらぬことの面白きほど拙きものをも取り出でて評せむ。

昨年より「聊か思ふところ」があり「去冬より今春へかけ」て「童謡を蒐集」していたようである。その真意は詳らかではないが、少なくとも露伴の少年文学作品の発表時期と重なっており、児童への意識が認められる。例えば、福岡県の子守歌「夏去り冬来る年毎に、頓て大人になりぬれば、浮世の荒浪渡る児よ、今は心もゆるやかに、妾の床にて寝ねしよ」に対して、次のような批評を行っている。

古き子守歌を非なりとして新に心有り顔せる人の作り出でしもの与（か）、前のに比べては甚だしく趣味（おもむき）劣り理屈勝ちで、難すべき節は無きか知らねど歌といふものには中々遠きものなるべし。

「新に心有り顔せる人」が作ったであろう子守歌に対して、露伴は手厳しい批評を行っている。また「理屈勝ち」になっており、歌本来の「趣味」から遠ざかってしまっている点も指摘している。他にも全国各地の童謡や手鞠歌を挙げて批評を行っている。

このような童謡の批評とともに、同時期に発表した小説の中で、注目しておきたいのは「風流微塵蔵」である。

「風流微塵蔵」は明治二十六年一月二十八日から『国会』紙上において発表され、二十八年四月五日まで続いた作品であるが、未完に終わっている。その事由としては、発表期間中、露伴は腸チフスを患い瀕死の状態に陥ったこと、また、借金の保証人となったことで一時的だが上総望陀郡横田村へ転居するといった出来事が重なったことが挙げられる。

題名である「風流微塵蔵」だが、これは総題のようなもので、個々の題名にはそれぞれ「さゝ舟」（明治二十六年一月二十八～二月十六日『国会』）、「うすらひ」（同年二月十八～三月十二日『国会』）、「つゆくさ」（同年三月十四～十六日『国会』）、「蹄鐵」（同年三月二十三～四月二日『国会』）、「荷葉盃」（同年四月十九～六月二十日『国会』）、「きくの濱松」（同年九月一～十二月七日『国会』）、「さんなきぐるま」（同年十二月十二～二十三日『国会』）、「あがりがま」（明治二十七年十月十六～十二月二十七日『国会』）、「みやこどり」（明治二十八年二月五～四月五日『国会』）といった題名が付されている。[10]

露伴は本編に入る前に、先ず「風流微塵蔵引」（明治二十六年一月三日『国会』）を発表しており、執筆意図や題名の由来について次のように述べている。

我聞く。文のもつて義を載するを、脂那には経といひ、西天には線といふ。経は経緯相織るの意に取り、線は花を貫きて瓔珞を作し失墜せざるの意に取ると。我が心に得て筆に発するもの、之を呼んで経となさんか、必ずしも経緯相織ら

○弥沙塞部和醯五分律巻六、縮、張一ノ三十四丁」というように、小活字で出典が示されている。経典名とともに縮刷版『大蔵経』の頁数まで詳細に記されており、露伴の仏典渉猟の一端が認められる。

「『問ひ』」と「『思考』」とともに『宝の蔵』全十五話のうち、各話で仏教的視点が散見されるのだが、典型的なのは「第十　他の善を助くるに勇猛なる兎の話」であろう。ここでは狐、猿、獺、兎が大学者のために食物を探すも、兎だけがそれが叶わず、結果、自ら火に飛び込み食物として差し出す展開となる。いわば「自己犠牲」の話であり、既に『今昔物語集』第五巻十三話「三獣行菩薩道兎焼身語」でも扱われている有名な話である。次に挙げるのは、まさに兎が大学者のために自らの命を捧げる場面である。

いざ我が身をば食し玉へ、と云ひ終るや否や、奮然として身を躍らせ、烈々と燃ゆる火中に飛び入り、自ら焼かんとなしければ、老いたる學者は大きに驚き、兎が義烈に感歎なして、猛火の中より拯ひ出し、「我過てり、我過てり、如何で學をば怠らんや、汝が善を助くる志の勇猛なるに勵まされて我は一斗の米を食ひしよりも既に飽けり、（中略）今までにも増して心猛く修行に勤め勵まん、

兎は自らを犠牲とするも直前で大学者に救われる。そして大学者も「心猛く修行に勤め勵まん」といった形で心を改め再び精進する。兎の生命を賭した姿勢は大学者の心を動かし、真摯な利他の精神が表現されている。なお、『宝の蔵』の仏典に依拠した詳細な説明は拙稿で述べているので、そちらを参照されたい。[8]

全十五話を語り終えた翁は「よみじまひ」において、冒頭で示したように童子たちからの回答を聞くこととなる。各話の主眼となるポイントをそれぞれの童子が回答するのに対し、翁は「まことに然なり」という形で承認していく。いずれも仏教説話における教訓や世俗的倫理観に立脚した内容であるが、中にはこうした主眼とは距離のある回答を童子が行っている点も認められる。例えば、「第一　善牙獅子と善搏虎と両舌野干」では、善牙というライオンと善搏というトラが仲良く共生していた中、野干すなわち狐が両者を仲違いさせようとする。しかし、野干の計略が露見し両者によって食い殺されてしまう。童子たちはこうした内容から「彼の談は譎詐の益無きことを説きたる譬喩なるべし、両舌野干は（中略）愚なるめに会ひたり」「我等は獅子の如く虎の如くに独立して且相助けて世を経べし」「漫に争闘を為さぬといふことは賢き事なり（中略）妄に闘ひを開かざりしには感服したり」といった回答を述べている。この点について、関谷博『幸田露伴の非戦思想』[9]はそれぞれ一つ目は通俗的教訓、二つ目は相互扶助、三つ目は闘いを回避するための智恵への言及として挙げており、そこから戦争と平和に関する視点にまで及ぶことを指摘している。確かに、『宝の蔵』が発表された約二年後には日清戦争が起こっている。既に近代国家が志向される中、不平等条約の改正や隣国との国境確定、清・朝鮮との関係を課題として抱えていた日本の社会情勢にまで露伴が意識を向けていた可能性は十分考えられる。

大切なのは、『宝の蔵』作中の翁も含め、鵜呑みにするのではなく、読者が「よみじまひ」や物語全体についてよく「思考」すべきものであることが示されていることである。その他、少年文学作品と接続する事項として、同時期に露伴は童謡にも興味や関心があったことが挙げられる。次に挙げるのは、露伴「現存せる

二．『宝の蔵』と「風流微塵蔵」―物語の形式と内実―

露伴は『風流仏』（一八八九（明治二十二）年）発表を契機に一躍脚光を浴び、尾崎紅葉とともに明治二十年代の文壇において、ベストセラー作家として「紅露時代」の一翼を担うこととなった。『風流仏』冒頭では「三尊四天王十二童子羅漢さては五百羅漢」「緊那羅神の声を耳にするまでの熱心」「あはれ毘首竭摩の魂魄」など、仏典に拠る文言が各章で散見され、『法華経』の「十如是」を中心に展開していることが大きな特徴である。以降、「一口剣」（一八九〇（明治二十三）年）や「五重塔」（一八九一（明治二十四）年）など、仏典に依拠した作品を次々と発表し、精力的に執筆して当代文学を牽引していく。こうした中に並行して児童向けの作品――少年文学作品の発表が行われていく。

冒頭の「はじめに」の項で述べたように、露伴の少年文学の嚆矢として挙げられるのは「鉄之鍛」（一八九〇（明治二十三）年一月『少年園』）である。以降、立て続けに「二宮尊徳翁」や『宝の蔵』など、児童文学に接続する作品を発表していく。「鉄之鍛」の掲載された『少年園』は、日本で最初の少年雑誌であり、創刊されたのは一八八八（明治二十一）年であった。主筆の山県悌三郎は創刊の辞で「予輩は一に今の少年諸君、中小学の生徒諸子に向て大いに望みを嘱するものなり」と述べている。執筆者は露伴以外に森鴎外や坪内逍遥、落合直文など、当代文学を代表する錚々たる顔ぶれであった。

露伴自身も少年たちに対し「中小学の生徒諸子に向て大いに望みを嘱する」べく作品を執筆していたものと考えられる。その理由として、当時の露伴作品において、「問い」と「思考」を踏まえた語りの意識が挙げられるからである。

例えば『宝の蔵』を挙げてみたい。[7] この物語は、ある山里に住む一人の翁が所持する「寶の藏と呼べる繪巻」から、全十五話にわたる話を里の童子たちに聞かせる形式である。注目すべきは、第一話に入る前に翁は「よみはじめ」の項で、次のように述べている点である。

> 翁は微笑みながら「賢き諸君よ、よくこそ来玉ひつれ、古き言にも、『問ふことは知ることの初めなり』といへることあり、（中略）諸君は既に宝の蔵に善き『問ひ』を与へ玉ひたれば、次に善き『思考』といふものを与へ玉へ、『思考ふることは悟ることの初めなり』、問ひて知り玉ひたらば、かならず考へて悟るといふことを忘れ玉ふな、

まず翁は冒頭における「『問ひ』」を与えることと「『思考』」ることを童子たちに示す。引用文の続きでは、翁は約束として「くれぐれも善く聴き善く考へ玉へ」というように物語を聞き終えた後、童子たちに各話の含意するところを問うよう示唆する。啓発誘導としての側面も読み取れるが、こうした形式は『宝の蔵』のみならず、それ以降に発表する少年文学作品においても同様となっている。例えば、『真西遊記』では「明治の御代の年少き諸君」、また、「伊能忠敬翁」では「可愛き年少の諸君」といった形で語り手が述べている。やはり作者露伴には「中小学の生徒諸子に向て」といった意識があるようにうかがえる。

加えて、『宝の蔵』各話はそれぞれ仏典に依拠しており、露伴文学の特徴も表出している。それは作品世界に入る前の「目録および出所」として記されている。例えば「第一　善牙獅子と善博虎と両舌野干との話」の後に「十誦律巻九、縮、張三ノ五十九丁

年の「イソップ物語」である。前者は富国強兵を担いつつ、後者は実利的な教訓性を伝えるといった内実を秘めており、物語の面白さが当時の子どもたちには魅力的となった。また、一八九〇年から九二年にかけて『女学雑誌』に掲載された若松賤子訳による、バーネット『小公子』は特徴的と言える。それまで文語調で書かれていた子ども向けの物語を口語体で表現し、キリスト教的な博愛主義、家庭における母子愛の尊さを説いている。その他、一八八〇年代にはグリム童話の翻訳が絵本化されるなど、絵本の形でも翻訳は受容されるようになった。就学時代であった当時の露伴も吸収していた可能性は高いだろう。こうした海外からの流入が認められる一方で、先に挙げた巌谷小波『こがね丸』の登場があるわけだが、こちらは犬を主人公とする仇討ち物で、勧善懲悪の思想が表出している。しかも文語体で書かれ、江戸時代以来の封建思想も色濃く残る内容であったが、当時の子どもたちの間では人気を博した。以降、小波は日本の昔話や世界の昔話を再話にした叢書を著し、明治から大正にかけて雑誌『少年世界』の主筆を務めるなど、多方面で活躍している。この潮流は押川春浪らの冒険小説にも受け継がれ、一九一一年から刊行が始まった講談本『立川文庫』とともにエンターテインメント系の大衆児童文学へと接続していく。[5]

巌谷小波自身、尾崎紅葉や山田美妙らが創設した文学結社「硯友社」のメンバーであり、出発点は児童文学からではなかった。小説の代表作としては『妹背貝』が挙げられ、言文一致体を用いた少年少女の儚い恋物語を描いていたことは有名な話である。その後、『こがね丸』発表を契機に明治期の児童文学を代表する作家となり、博文館の雑誌『少年世界』の主筆として活躍するまでに到ったわけである。

先述したように、『こがね丸』は文語体で書かれているが、その背景として、音読への意識もうかがえる。このことは『こがね丸』「凡例」（まえがき）において、次のように示されている。

> ひたすら少年の読みやすからんを願ふてわざと例の言文一致も廃しつ。時に五七の句調など用ひて、趣向も文章も天晴れ時代ぶりたれど、これかえつて少年には、誦しやすく解しやすからんか。

右引用文「少年には、誦しやすく解しやすからんか」といった部分から、『こがね丸』が文語体で書かれたのは、音読のためであることが読み取れる。しかも物語世界は先に触れた通り、犬を主人公とした仇討ち物で勧善懲悪の思想が中心となっている。こうした小波の姿勢を受けてか、露伴『宝の蔵』では全十五話を通して、大半は動物たちが主人公となっている。このことに関する露伴の直接の言及は見当たらないが、当代文学で一躍脚光を浴びた小波の作品スタイルを意識していた可能性は十分考えられるだろう。

小波の作品が契機となって児童文学はさらに展開していくわけだが、それは後年、子どもたちの前で語る口演童話の創始にも接続し、さらには蘆谷蘆村や久留島武彦らによって継承され、独自の発展を遂げていくこととなる。当時の特徴としては、翻訳など西欧の児童文学の流入とともに、江戸時代から続く勧善懲悪を主軸とした戯作文学が混交していた情況が挙げられる。[6]露伴もこうした児童文学の展開を間近に接し、影響を受けていたものと考えられる。

での誕生であった。小波の言う「少年用文学」とは子どもの文学にほかならず、現在の児童文学の先駆的存在として位置づけられる。

ただし、『こがね丸』を始めとした当時の少年文学の内実は、道徳的かつ教訓的内容を主とし、加えて難解さや漢語の多様さも認められ、今日我々の想像する児童文学とは決して同質ではない。小波自身も「お伽噺」は子どもに限定したわけではなく、大人にも通用する文学としての質の高さを求めていた[1]。こうした背景には、明治政府による富国強兵や殖産興業、立身出世思想の昂揚が認められ、いわば日本近代児童文学の開陳に際して、新たな近代国家を担う若者養成と啓発誘導といった視点が強かったことは「こがね丸」以降の少年文学作品からも読み取れる[2]。

こうした新時代の潮流の中、明治二十年代に「紅露時代」と称され、文壇の一時代を築いた作家・幸田露伴も児童向け作品すなわち少年文学に関連する作品を複数発表している。具体的には「鉄之鍛」（一八九〇（明治二十三）年一月『少年圓』）や「二宮尊徳翁」（一八九一（同二十四）年十月『少年文学』）、『宝の蔵』（一八九二（同二十五）年七月 学齢館）、『真西遊記』（一八九三（同二十六）年三月 学齢館）、「伊能忠敬翁」（同年五月『少年雅賞』）などが挙げられる。いずれも道徳や倫理観を基軸とし、そこに歴史上の人物や仏典を下敷きとした作品となっている。併せて、作品によっては物語の形式や内実において、露伴の意識や工夫の跡も認められる。

本稿では、露伴文学における「児童文学」の位置づけの一階梯として、『宝の蔵』や「風流微塵蔵」（明治二十六年一月二十八日～同二十八年四月五日『国会』）など、同時期に発表した作品や身辺状況にも触れながら、露伴と「児童文学」に関する考察を試みたい。

一、明治期における「児童文学」概況

露伴が作家として文壇デビューしたのは明治二十二年であるが、そもそも当時の児童文学はどのような状況にあったのか。概況ではあるが、まずはここから確認してみたい。

近代国家樹立を進めるべく、明治政府は富国強兵や殖産興業、立身出世思想を強く打ち出したが、教育の面でもそれは同様であった。一八七二（明治五）年の学制公布による学校制度の整備を始め、一八九〇（同二十三）年の教育勅語発布など、子どもが等質に制度内に組み込まれ、新たな知識獲得と啓発誘導のもと教育の確立と普及が成された。露伴もこうした新たな学校制度の構築が進む中で、東京師範学校附属小学校や東京府第一中学校において就学時代を重ねている。

学校制度の近代化と並行して、西欧の児童文学とともに新たな子ども観の流入も挙げられる。西欧から輸入された印刷技術や流通システムの普及、子どもを主眼とした出版物の相次ぐ誕生など、日本の近代化や文明化を急務として、子どもたちの識字教育に力を注がれたことが挙げられる[3]。端的に言うと、明治期の教育は西洋のモデルをとり入れた欧化政策に努めたものであり、それは児童文学の世界においても同様であった。啓蒙書から物語に到るまで輸入ものの翻訳・翻案が占めている。江戸時代の封建社会で流通した儒学的思想から一転し、キリスト教を主とした資本主義的倫理思想が英米の科学読みものや教育書から取り入れられたわけである[4]。

例えば、一八四八年の『ロビンソン・クルーソー』や一八七三

幸田露伴と「児童文学」に関する一考察

渡辺賢治

【要旨】明治期を代表する作家・幸田露伴は児童向けの作品も発表している。その内容は道徳や倫理観を基軸とし、近代国家を担う若者養成と啓発誘導といった視点とともに歴史上の人物や仏典なども下敷きにしている。「児童文学」すなわち少年文学の一例として『宝の蔵』が挙げられるが、この作品は全十五話構成のもと一人の翁によって語られ、総題として題名が付されている。同時期に発表された小説「風流微塵蔵」も同様に各物語世界の総題として題名が付されている。また、『宝の蔵』では若者への啓発誘導とともに「思考」や「問い」を求める一方、「風流微塵蔵」では少年少女を中心とした物語展開で「縁起」や「会者定理」といった仏典の言葉を用いて紆余曲折・煩悶葛藤しながら主人公自身、自らの人生を考え、問うている。明治二十年代半ばの露伴の文業を見てみると、児童向け・大人向け作品はともかく互いに連動している点が特徴として挙げられ、「児童文学」は露伴文学形成の一部分を担っていると言えるのである。

はじめに

日本近代文学の黎明期から昭和初期まで活躍した幸田露伴の作家活動は実に多彩であったと言える。小説はもとより評論、随筆、紀行、史伝、考証、戯曲など、露伴文学の全貌は広大であり、没後から七十年以上を経た現在においても未だ解明されていない部分が多く残っている。それは露伴と児童文学といった視点においても同様であり、論考が充実しているとは言い難い状況にある。

周知の如く、明治期においては巌谷小波『こがね丸』（一八九一（明治二十四）年一月 博文館）の発表を契機に「お伽話」は次々と誕生し、現代まで脈々と続く児童文学の基底を創出した。『こがね丸』の前書き部分（「凡例」）では「此書題して『少年文学』と云へるは、少年用文学との意味」であることが示されており、当代において既に大人とは異なる存在としての「子ども」が見出されていたことがうかがえる。もちろん当時は「児童文学」といった言葉自体は存在しない。明治二十年代、『こがね丸』が収載された『少年文学叢書』を始め『少年園』や『日本之少年』、『少国民』や『少年文庫』などの雑誌は「少年文学」といった枠組み

二〇二二年二月一日受付
WATANABE Kenji 幼児教育保育学科・准教授（日本近代文学）

星野徹『Quo Vadis?』（思潮社、一九九〇）
星野徹『星野徹の世界――神話論的形而上詩』（沖積舎、一九九六）
星野徹『ダンの流派と現代』（沖積舎、二〇〇〇）
星野徹『祭その他』（思潮社、二〇〇一）
鬼塚敬一訳『ジョージ・ハーバート詩集』（南雲堂、一九八六）
菅野弘久「星野徹のT・S・エリオット受容」、『常磐短期大学研究紀要』第四五号、六二 - 七六頁
菅野弘久「星野徹の〈劇的独白〉」、『大みか英語英文学研究』第二一号、二一 - 三二頁
菅野弘久「星野徹のジョージ・ハーバート受容」、『大みか英語英文学研究』第二五号、一 - 一二頁
Eliot, T.S., *Geroge Herbert* (Northcote, 1994).
Frye, Northrop, *Myth and Metaphor Selected Essays 1974-1988*, ed.by Robert D. Denham (Univerity Press of Virginia, 1990)
Hutchinson, F. E., *The Works of George Herbert* (Oxford UP, 1964)

(10) 「ジョージ・ハーバート論2 詩篇「犠牲(いけにえ)」をどう読むべきか」、六八頁。
(11) 「ジョージ・ハーバートの詩篇「犠牲」をめぐって」、『ダンの流派と現代』、三五 - 三八頁。
(12) 初出は詩誌『白亜紀』一一一号（一九九九年四月）で、その後、『祭その他』所収。
(13) 「原型的イメジ」（一九六八）、『星野徹詩論集Ⅰ』、三〇頁。
(14) 「想像力のあがない」（一九六六）、『詩の原型』、一九六 - 一九七頁。
(15) 同右、二一四頁。
(16) 同右、二一八頁。
(17) 「詩篇「犠牲（*The Sacrifice*）をどう読むべきか」、十七 - 十八頁。
(18) Eliot, T.S., *George Herbert*, p.26. "My point here is *The Temple* is not to be regarded as a collection of poems, but (as I have said) as a record of the spiritual struggles of a man of intellectual power and emotional intensity who gave much toil to perfecting his verses."〈わたしがここで指摘したいのは、『聖堂』を単に詩篇を集めたものとみなすべきではないということで、そうではなく（すでに述べたように）、自分の詩を完全なものにしようと努力した知性と情緒的強さを備えた人間の精神的苦闘の記録なのである〉。
(19) Frye, Northrop, "The Double Mirror" in *Myth and Metaphor*, p.231.

参考文献

星野徹「T・S・エリオット論――「四つの四重奏曲」を中心として」、詩誌『白亜紀』九号、三四 - 三九頁及び十号、三五 - 三八頁
星野徹「車輪と車軸」、『車輪と車軸――T・S・エリオット論』、三六 - 九五頁
星野徹「想像力のあがない」、『詩の原型』、一八六 - 二一八頁
星野徹「原型的イメジ」、『星野徹詩論集Ⅰ』、二九 - 五〇頁
星野徹「ペシミズムの克服」、『車輪と車軸――T・S・エリオット論』、七 - 三五頁
星野徹「詩的人生」、『星野徹の世界――神話論的形而上詩』、九四 - 九八頁
星野徹「ジョージ・ハーバートの詩篇「犠牲」をめぐって」、詩誌『白亜紀』一〇九号、六二 - 六七頁
星野徹「ジョージ・ハーバートの詩篇「犠牲」をめぐって」、『ダンの流派と現代』、二三 - 三八頁
星野徹「詩篇「犠牲（*The Sacrifice*）をどう読むべきか」、『大みか英語英文学研究』第七号、一 - 二〇頁
星野徹「ジョージ・ハーバート論1 詩篇「犠牲(いけにえ)」をどう読むか」、日本詩人クラブ機関誌『詩界』第二四四号、四八 - 五八頁
星野徹「ジョージ・ハーバート論2 詩篇「犠牲(いけにえ)」をどう読むか」、日本詩人クラブ機関誌『詩界』第二四六号、六一 - 七二頁
星野徹『詩の原型』（思潮社、一九六七）
星野徹『星野徹詩論集Ⅰ』（笠間書院、一九七五）
星野徹『PERSONAE』（国文社、一九七〇）
星野徹『車輪と車軸――T・S・エリオット論』（沖積舎、一九八一）

そのものであり、しかも〈実存的現実〉を映す〈鏡〉であることから、そこに映し出される精神の軌跡――〈精神的苦闘の記録〉――は、個の実存的価値を詩を書くことで問い続けた星野自身のそれ、すなわちキリスト教的実存主義とも重なり合う。

自己を語ることには禁欲的であろうとするかのように、第一詩集『PERSONAE』（一九七〇）では、〈仮面／ペルソナ〉をつけて語ることを選んだ星野だが、晩年になるとキリスト教的主題について、また自身の信仰にかかわる内容について、その〈仮面〉を外して素顔を見せるときが多くなる。たとえば、「Quo Vadis?」（一九八九）のように――

考えねばならぬことが乾いた砂のように積っている
神について　神を讃える言葉について　その言葉の
地上とここでとの　多分　不可逆的な関係について

「伝承」は詩集『祭その他』（二〇〇一）の巻頭に置かれている。その詩的方位を暗示するマニフェストのような配置からは、星野が〈予表的想像力〉というハーバートの敬虔さを映す透徹した表現に、たとえば、〈目覚めはいつになく爽か　脇腹が生き物のようにぴくりと動いたからだろう　こともあろうにわたしの中にお父さんが　と　奇妙な確信が漲ってきたからだろう　わたしは跳ね起きざま陽の中に佇むと　カサブランカの花殻ごと　何のためらいもなく雌蕊を折る〉（「雌蕊を折る」）や、〈と　誰か　宇宙の縁から同じようにルーペ片手に　こちらをしげしげ覗きこんでいるのだろうか　視線と覚しき光を額に受けながら　わたしはルーペを畳む　深々と花にお辞儀をする〉（「花1」）などからうかがえる、何気ない日常的風景のなかに神意を感じ取る瞬間を、より鮮明にした形而上詩の可能性を見ていたのではないかと考えられる。それは〈言の言葉への肉化〉というエリオット的課題へ、さらに詩人としての歩みを進めたことを意味する。

注

（1）「ジョージ・ハーバートの詩篇「犠牲」をめぐって」（一九九八）、「ジョージ・ハーバートの詩篇「犠牲」をめぐって」（二〇〇〇）、「詩篇「犠牲（*The Sacrifice*）をどう読むべきか」（二〇〇三）、「ジョージ・ハーバート論1　詩篇「犠牲（いけにえ）」をどう読むべきか」（二〇〇四）、「ジョージ・ハーバート論2　詩篇「犠牲（いけにえ）」をどう読むべきか」（二〇〇五）。

（2）「マタイによる福音書」五章十七節〈私が来たのは律法や預言者を廃止するためだ、と思ってはならない。廃止するためではなく、完成するためである〉。

（3）「詩的人生」（一九九六）、『星野徹の世界――神話論的形而上詩』、九七 - 九八頁。

（4）鬼塚敬一訳『ジョージ・ハーバート詩集』、七七頁。

（5）星野の〈劇的独白〉については、菅野弘久「星野徹の〈劇的独白〉」参照。

（6）「ジョージ・ハーバート論1　詩篇「犠牲（いけにえ）」をどう読むべきか」、五二頁。

（7）同右、五七頁。

（8）同右、五〇 - 五一頁。

（9）同右、五八頁。

ばに、星野の信仰にささえられた詩への確信が読み取れるからである――〈世にも愚かな荷物にすぎないこのわたしをもみ心は見棄てられなかった〉。

人間に奉仕するための〈ろば〉を〈男〉が背負うという異常な関係のなかで、ともに苦役を引き受けるものとしての心理的な一体感が生まれる。それは〈おのれの肩に掛けられた痛い脚をまるでおのれの脚のように撫で摩り〉からも感じ取れるものだが、この一体感は読者と詩人自身にも波及し、そこから信仰と結びついた詩への確信も生まれてくる。

この一体感から想起される、〈人語〉を語る〈ろば〉の〈伝承〉。〈占ト者〉を回心させる〈ろば〉のことばに、〈男〉は〈ろば〉が〈神の御座(みくら)に近く〉いることを知るが、そのことが〈タイポロジー〉によって暗示されるエルサレム入城の場面と結びついて、〈ロバ〉を運ぶ〈男〉の苦役は、イエス・キリストを運ぶ苦役となる。〈唯一神〉のことばを仲介する〈ろば〉は、〈ロゴス〉を詩のことばに変え得るエリオットに重なり、星野がもとめる詩人の姿そのものとなる。〈ろば／イエス・キリスト〉を運ぶ苦役は、したがって〈言の言葉への肉化〉という神のことばに近づくための喜びとなる。この信仰による詩への確信が星野にとって確かであることは、詩篇の最後にあらわれる、〈歴史の闇〉から姿をあらわす〈金環蝕〉の〈輝き〉に向かって、平安のうちにゆっくりと進んでいく〈ろば〉と〈男〉の姿に明らかである――〈すっかり厄介をかけてしまって　と呟きながら　手の平で首を優しく叩きながら　するといそいそと蹄を鳴らす荷物〉。

＊

星野が「犠牲(いけにえ)」の読み方について繰り返し取り上げたことには、ハーバートをジョン・ダンの流派に安易に回収することに慎重なエリオットへの共感があったという[17]。そしてその共感が、『聖堂、聖なる詩篇とわたくしの祈り』*The Temple. Sacred Poems and Private Ejaculations*を、絶望を祈りに昇華させる知性と感受性にあふれた人間の〈精神的苦闘の記録[18]〉と捉えるエリオットの読みから生まれたことは間違いないだろう。詩篇の〈タイポロジー〉を抽出し、その照応関係を明らかにするときに読者自身の信仰のありかが問われる〈予表的想像力〉を、

> In short, the Bible is explicitly antireferential in structure, and deliberately blocks off any world of presence behind itself. In Christianity, everything in the Old Testament is a "type" of which the "antitype" or existential reality is in the New Testament. This turns the Bible into a double mirror reflecting only itself to itself.[19]

> 要するに『聖書』は、明かに反照合的な構造であり、背後にある現前の世界をどのようなものでも意図的に遮断する。キリスト教では、『旧約聖書』のすべてのものが〈予表〉であり、その〈対型〉である実存的現実が『新約聖書』に存在する。かくして『聖書』は、その姿をそれ自身に映す二重の鏡となる。

というノースロップ・フライのことばによって、さらに深く理解できるとすれば、ハーバートの詩篇は、星野にとって〈二重の鏡〉

その〈肉化〉の具体的内容について、『四つの四重奏』における〈肉化〉のありようを相対化して星野は、W・B・イエイツとの比較も含めて、次のように要約する――

エリオットもほぼ同じ時代に生きながら、キリスト教正統を中心とする文化の再統一の理念を築き、その理念にもとづいて詩を書いた。その理念の核、ロゴスを、想像力に受胎させることによって、詩の言葉に肉化せしめようとした。どちらも、言葉、イメジ、つまり詩の作品に、それ自体として堅固な、或いは自律的で充足した存在を与えようとしたからではないのか。それ自体として堅固な充足した存在とは、世界の現実からも詩人の人間からも完全に超絶しながら、同時にそれらとネガティヴな形で過不足なく対応するものの謂であろう。[15]

科学技術の発展と無関係ではない戦禍によって〈荒地〉と化した二十世紀社会の〈文化の再統一〉を図るために、エリオットは〈キリスト教正統〉を〈理念の核〉に置いて、〈ロゴスを、想像力に受胎させること〉で〈詩の言葉に肉化〉し、それによって得られる〈詩〉を〈堅固な〉〈自律的で充足した存在〉とすることを求めた。〈世界〉と〈人間〉から〈超絶〉しながらも、その客体化によって両者と鋭く交差する詩的世界の創造を望んだ。エリオットの詩の基本思想にある、この〈ペシミズム〉の主知的な〈克服〉は、同じように戦争による虚無感や喪失感から詩作をはじめた星野自身の、詩人としての意識を強く決定づけるものになった。星野はそのようなエリオットに、あるべき詩人の姿を見ていたはずだが、しかしまた、〈想像力のあがない〉について、エリオットの詩的営為とむすびつけて思考を重ねた最後に、詩人として進むべき方位を見定めながらも、その一歩を踏み出せずにいる、ある迷いのようなものがあることを隠そうとはしない――

私たちに、想像力を贖うべき目標が存在するか。図式が成立するか。（中略）想像力を贖うべき目標も図式も、私にとってはいまだかすかな予感の形でしか訪れてこない。私の意識の地平には、エリオットとイェーツが立っているだけなのだ。異教の神々のように凝然と、私の地平を翳らせながら[16]――。

この迷いについては、一連のエリオット論が書かれた一九六〇年代から一九七〇年代初頭には、星野の主たる関心は、詩と神話または原初的なことばとの関係にあり、エリオットの〈言の言葉への肉化〉は、まだ実作に反映しえないと星野が感じていたからかもしれない。そこには、詩を〈自律的で充足した存在〉にするための表現技巧の課題、あるいは自身の信仰のありかについての省察ということも含まれるはずで、いずれにせよ、その迷いの意味――詩人としての星野の歩みにもかかわる――を明らかにするには、あらためて稿を起さなければならないが、少なくとも「伝承」が書かれたときには、このときの迷いはすでに払拭されていると判断できる。ハーバートの詩篇を読むことで、エリオット的な〈文学〉と〈宗教〉にかかわる〈予表的想像力〉を星野が獲得し、またそれを実作に援用しているだけでなく、〈唯一神の愛を忝くする故国〉をめざす〈民びとたち〉に〈絶滅の呪い〉をかけようとする〈占卜者〉が、〈ろば〉の語る〈唯一神〉のことばに〈忽ち恐れ戦き回心〉し、涙を流して語った〈かもしれない〉こと

可能性を胚胎するために、〈ことば〉は〈人間の存在〉とも等価的にかかわることを明らかにすると、星野は「ヨハネによる福音書」の冒頭〈初めに言(ことば)があった。言は神と共にあった。言は神であった〉にふれて、〈神〉の〈言〉を、まさに〈言は神であった〉のメタファーが示すように、詩人の〈想像力〉によって詩の〈ことば〉にすることが、〈詩人の究極の目標であり使命である〉と主張する。この〈神〉の〈言〉の詩の〈ことば〉への変換、すなわち〈神〉の〈言〉に〈ことば〉で近づくことによって、不可思議な〈人間の存在〉の個的価値を問うこと、つまりは詩人であり続けることの意義は、星野のエリオット理解、とくに『四つの四重奏』の緻密な読みにもとづいている。

「T・S・エリオット論――「四つの四重奏曲」を中心として」（一九五九）において星野は、『四つの四重奏』の中心的イメジが、「バーント・ノートン 第二曲」"Burnt Norton II"の〈泥の中の韮とサファイアが／倒れた車軸を固定する〉"Garlic and sapphires in the mud / Clot the bedded axle-tree"にあらわれる〈車軸〉とそこから想起される〈車輪〉にあることを早くも指摘し、〈車軸〉と〈車輪〉による旋回のイメジ、そして〈車軸〉の中心にある〈静止点〉"the still point of the turning world"という構図に〈普遍的なロゴスの存在〉を読み取り、『四つの四重奏』にあらわれるさまざまなイメジは、この〈静止点／ロゴス〉に集約されることを主張する。

「車輪と車軸」では、〈車軸〉について検討がなされたあと、〈車輪〉の象徴的表現がエリオットの作品全体のなかで、どのように生成されたかが、「J・アルフレッド・プルフロックの恋唄」"The Love Song of J. Alfred Prufrock"から『灰の水曜日』*Ash-Wednesday*までを射程に入れて詳述される。その綿密な検証を経て、ふたたび「想像力のあがない」では、〈泥の中の韮とサファイア〉に通じる、T・E・ヒュームの〈しかし眼は泥の中にある。眼は泥である〉を引いて、人間の〈眼〉が〈泥〉のなかにあるから、人間は超越的一者をとらえる知性を持ちえず、その結果、神との隔絶性が強調される〈ペシミズム〉にヒュームが陥っているのに対し、エリオットは逆に、人間が〈泥〉のなかに存在するからこそ〈ロゴス〉を固定し、その〈ロゴス〉にふれる瞬間を手にすることで、ヒュームの〈ペシミズム〉を〈克服〉できると考える。その上で『四つの四重奏』について、次のような認識を示す――

> 〈言〉の言葉への肉化、それの成就こそ詩人の究極の目標であり使命でもあると、エリオットは考えた。
>
> この、〈言〉の言葉への肉化による詩の贖い、及びキリストにおける肉化の瞬間への悟入による時間の贖い、それが『四つの四重奏』の全曲を貫く主題となる。車輪と車軸のイメジは、その主題を収斂し、かつ展開せしめる基調となる。[14]

ヒュームへの言及であらわれた〈ペシミズム〉については、星野のエリオット論の到達点である「ペシミズムの克服」（一九七二）での議論につながり、そこではエリオットのアングロ・カトリックへの改宗と重ねて、「伝統と個人の才能」（一九一九）に代表される〈伝統〉論と「宗教と文学」（一九三〇）における文学批評を補完する〈宗教〉という観点から理念的に〈ペシミズム〉が〈克服〉されていく様子が論じられるが、詩人にとっての真の〈克服〉とは、その思想や理念を作品化することであり、さらにそこに信仰への問いを含めれば、〈〈言〉の言葉への肉化〉ということになる。

りも〈神の御座に近く〉いることを知る。月日がたち、今度はその〈荷物〉が〈三十歳代の半ばを超えようとする男〉を運んでいるときに、〈あなたは必ずわたしの背に運ばれて都の城門を潜らねばならない〉と語り出した――。

詩篇はこのように語られていくが、注釈にある「民数記」二二章二七節‐三〇節では、〈うずくまって〉動かなくなった〈ろば〉を〈バラム〉が〈杖で打った〉ときに、〈ろば〉が〈主〉の力で語ったとされる――〈ろばは主の御使いを見て、バラムを乗せたままうずくまってしまった。バラムは怒りを燃え上がらせ、ろばを杖で打った。主がそのとき、ろばの口を開かれたので、ろばはバラムに言った。「わたしがあなたに何をしたというのですか。三度もわたしを打つとは」〉。この〈バラムを乗せた〉〈ろば〉は、〈わたしの背に運ばれて都の城門を潜らねばならない〉と〈棕櫚の枝で打ち払い〉の詩句から、イエスのエルサレム入城への連想を促し、そのことを伝える「マタイ」、「マルコ」、「ヨハネ」の三つの「福音書」のうち、たとえば「ヨハネによる福音書」一二章一二節‐一五節と結びついて、ここに〈タイポロジー〉が成立する――〈その翌日、祭りに来ていた大勢の群衆は、イエスがエルサレムに来られると聞き、なつめやしの枝を持って迎えに出た。そして、叫び続けた。「ホサナ。主の名によって来られる方に、祝福があるように、イスラエルの王に。」イエスはろばの子を見つけて、お乗りになった。次のように書いてあるとおりである。「シオンの娘よ、恐れるな。見よ、お前の王がおいでになる、ろばの子に乗って。」〉。

〈月明の草原〉から〈金環蝕　その輝きの方へ〉、〈前屈みの姿勢のまま　数歩あるいては立ち止まり　呼吸を鎮め　また数歩あるいては　という行為〉を〈月の出のずっと前から倦きもせずに〉繰り返しながら、〈重い荷物〉を背負って歩き続ける〈ごくありふれたひとりの男〉とは、ほかならぬ詩人・星野徹の自画像であるかもしれない。そうであれば、〈重い荷物〉とは、文脈上は〈前脚の片方を〉〈骨折〉した〈ろば〉のことだが、この人間が家畜に尽くすという通常とは逆の構図には、危機的状況にある困難な時代に詩を書き続けて、詩人でいることの覚悟のようなものが認められる。それはたとえば、神話や原型を手がかりに初期の詩的営為の可能性を探るなかで語られる、〈現代において、物を把握しなおし、人間と物との関係を把握しなおすことは、特に詩人に課せられた苦痛な使命であると思われる〉[13]ということばにも通じる、詩人としての意志の表明とも言い換えられる。〈荷物／ろば〉は〈神の御座〉に近い存在であることから、その〈ろば〉が〈男〉に力なく背負われた姿に、十字架から降ろされて聖母に抱かれるイエス・キリストを、あるいは〈男〉の引きずるような重い足取りに、世の罪を贖うために十字架を背負いながら刑場へ向かうイエスをイメジする余地が生まれるなら、〈詩人に課せられた苦痛な使命〉を引き受ける、その意志の強さは信仰ともかかわりながら倍加する。

この詩人としての意志を「伝承」の文脈で考えるなら、右のことばとほぼ同時期に書かれた「想像力のあがない」（一九六六）や『四つの四重奏』*Four Quartets*に焦点をあてた「車輪と車軸」（一九六二）にふれる必要がある。「想像力のあがない」の議論の根底にあるのも、〈近代の毒をあおぎすぎた結果〉の混沌とした時代相と測りあえる〈想像力〉についてであり、またそれを正しく行使する詩人についての意識である。壮大な交響曲の静かにはじまる序奏のように、さまざまに位相を変える類推を重ねながら、〈ことば〉と〈想像力〉は可逆的／等価的にかかわり、またその

批評の可能性を含み、また詩の自律性を保証し得る、この〈予表的想像力〉に依りながら、星野は「伝承」という詩を書いている――

月明の草原というごくあり触れた設定から話がはじまる
設定にふさわしくこれまた見た目にはごくあり触れたひと
りの男が　前屈(こご)みの姿勢のまま　数歩あるいては立ち止ま
り　呼吸を鎮め　また数歩あるいては　という行為を繰り
返している　よほど重い荷物を担(にな)っているのだろう　月の
出のずっと前から倦きもせずにまるで単純な行為をどれだ
け繰り返してきたときだったか　突然　荷物が断いた　む
ろん首を振りざまよしよしと宥める男　今は荷物でも　抜
群の丈夫さを誇るそのいとしい運搬力を　今年の税の代り
に止むを得ず差し出したのだが　小役人の強欲な目論見の
ために丈夫なはずの前脚の片方を　あろうことか骨折して
しまったのだ　もう一度　よしよしと宥めながら　男の脳
裏には　草原一帯で語られる気の遠くなるほど古くてくす
んだ伝承が浮かんでいた　片やコブラ神やトキ神の誅求か
らかつがつに脱出し唯一神の愛を忝くする故国をはるばる
目指して　困憊のあげくこの草原に差し掛かった民びとた
ち　片やその数の勢いに怯みながらも阻止しなければ　と
する異教の王に買収されて　絶滅の呪いを掛けるべく草原
を急ぐ占卜者　と　骨折も何もしていないのに運搬して
くれる荷物の方が　突然　断き　糅(か)てて加えて人語を厳か
に語り出した*　唯一神がわたしを通して申される　あの夥
しい民びとたちを祝福せよ　草原が道を開けるまでと　忽
ち恐れ戦き回心したという異教の占卜者　世にも愚かな荷
物にすぎないこのわたしをもみ心は見棄てられなかったと
潸々(さんさん)　また潸々　であったかどうかは語られていないが
代わりに男から迸る汗か涙かが　月明の中で夥しく金剛石
の粒のように煌いた　おのれの肩に掛けられた痛い脚をま
るでおのれの脚のように撫で摩(さす)り　あまつさえ　あなたは
何とわたしより神の御座(みくら)に近くいますことかと敬虔に囁く
のだった　こうして十年が　いや十数年が忽ちくすみなが
ら経過したときだっただろう　かつて二十歳代の男の背に
運搬してもらった荷物が　こんどは三十歳代の半ばを超え
ようとする男を晴れて運搬してやる日が到来したのだ　唯
一神がわたしを通してこう申される　あなたは必ずわたし
の背に運ばれて都の城門を潜らねばならないと　折しも歴
史の闇の中から徐々に姿をあらわしてくる金環蝕　その輝
きの方へと　見た目にはのどかに男を運んでゆく荷物　む
ろん羽音も荒く襲いかかる蠅どもを習い性のように棕櫚の
枝で打ち払い　すっかり厄介をかけてしまって　と呟きな
がら　手の平で首を優しく叩きながら　するといそいそと
蹄を鳴らす荷物

＊「民数記」二二章二七節 - 三〇節。[12]

〈ごくあり触れたひとりの男〉が〈重い荷物〉を背負って歩いていると、〈男の脳裏〉に〈気の遠くなるほど古くてくすんだ伝承〉が浮かんでくる。〈唯一神の愛を忝くする故国〉をめざして〈草原〉を進む〈民びとたち〉と、それを何としても〈阻止しなければ〉と考える〈異教の王〉。そのために〈買収されて〉〈絶滅の呪いを掛ける〉〈占卜者〉を乗せた〈荷物〉が、〈突然　断き〉、〈人語を厳かに語り出した〉。そのことで〈男〉は、〈荷物〉が自分よ

Never was grief like mine.

けれどもこうしてわたしは死ぬ、こうしてすべてが終わった、
わたしの苦しみは人の幸福、こうしてわたしは首を垂れる、
ただ他のひとびとには言わせたらよい、わたしがこうして
　死んだとき、
　　この痛みに比えられる痛みは絶えてなかった、と。

第五四連に呼応するように、〈この痛みに比えられる痛みは絶えてなかった〉を繰り返して締め括る最終連について星野は、それまでの〈タイポロジー〉をしのばせた〈複雑な詩的構造〉ばかりでなく、〈鋭角的なイメジ〉や〈入り組んだニュアンス〉さえも削り落とした〈散文による骨組み〉だけが、〈枯れ骨の色をまといながらも、風化を免れて、そこにあっけらかんと、と言ってもよい風情〉をたたえたものだという。そして、この極度の抽象性をおびた風景は、〈劇的独白〉を通してイエスが〈そしてまたハーバート自身が〉内面の〈痛み〉を語ることによって、すなわち〈痛み〉を外化することによって――禅宗でいう放下に相当する――得られた結果であると考える――

詩篇「犠牲」は第一連から第六二連まで、この外化、放下をひたすら繰り返して来て、第六三連の骨組みだけがあっけらかんと佇立する、言わば幾何学的で抽象的な、そして見る人によっては溢れんばかりの光に包まれた、とも言ってよさそうな、実に現実離れも甚だしい景観に到達するのだ。[10]

このような想定は、〈タイポロジー〉を抽出し、その意味を自身の信仰心に照らして考えながら、「犠牲（いけにえ）」を読むことで初めて引き出されるものだが、しかしエンプソンやテューヴの方法論では得にくいものでもある。

エンプソンの意味論的分析について星野は、〈感性の刃物のような鋭さと意味論的追求の真摯さ〉は認めても、〈作品自体の中で自律的に起きるところの意味の増殖過程を息せき切って追いかけ、かつ懸命に言葉で捉えようとする行為〉であり、その分析者の関心次第では際限なく続きかねない分析を、どこで中断すべきかの判断が重要になると指摘する。そして中断の根拠をあたえてくれるテューヴの歴史主義的批評については、その根拠となる〈伝統的な意味の限界、枠組〉を強調し過ぎると、詩はもはや詩たりえず、単なる〈歴史研究の資料〉でしかないとの認識を示す。[11]

それに対し、〈予表的想像力〉では、詩の中心的イメジとその現前化する必然性が、〈予表〉と〈対型〉の類比的関係によって詩に内在すると考えるため、分析者や歴史的事実という外在的要因に依拠して不必要な影響を受けない分、詩を自律的に完結したものと捉える余地が拡がることになる。したがって、〈タイポロジー〉を抽出し、その成立の背景を神学的かつ文学的に解明するときには、読者〈分析者〉の信仰心の篤さによって、その作業の深度と振幅に違いが生じ得るという点で、アリュージョンや〈コンシート〉の場合のように、そこに隠された意味や関係性を謎解きのごとく説明するだけでは終わらない、あくまでも批評としての可能性と意義を認めることができる。

＊

たしかに星野の読みは、みずからの信仰を確認するように進んでいくが、それがもっとも顕著となるのが、第五四連の〈タイポロジー〉の感知とその読みにふれたときである――

But, *O my God, my God!* why leav'st thou me,
The sonne, in whom thou dost delight to be?
My God, my God ――
Never was grief like mine.

けれど、〈ああわが神、わが神〉何故わたしをお見捨てに、あなたがその中にお座すことを喜ばれた、息子を何故？
〈わが神、わが神――〉
この痛みに比えられる痛みは絶えてなかった。

一行目には「詩篇」二二篇二節〈わが神、わが神／なぜ私をお見捨てになったのか／私の悲嘆の言葉は救いから遠い〉が余響し、その〈予表〉としてのダビデの悲痛な訴えは、三行目の「マタイによる福音書」二七章四六節〈三時ごろ、イエスは大声で叫ばれた。「エリ、エリ、レマ、サバクタニ」これは、「わが神、わが神、なぜ私をお見捨てになったのですか」という意味である〉でのイエスの悲痛な叫びとなって現実化する。この〈タイポロジー〉の成立を明らかにした上で星野は、詩篇の通奏低音のようなリフレイン――〈この痛みに比えられる痛みがかつてあったか〉――が、〈この痛みに比えられる痛みは絶えてなかった〉と断定に変化することにふれて、読者はここで悲痛な叫びにこめた〈痛み〉を、理念化されたキリスト像のものではなく、生身の苦痛として受け止めるはずだと考える。

〈神〉が贖罪の〈犠牲〉として〈息子／イエス〉の肉の命を所望し、その絶命に向かって急展開するという、キリスト教神学のもっとも重要な部分に密着した第五四連で身体化されるこの〈痛み〉が、「犠牲（いけにえ）」を読み進めるときに星野自身の裡に生じた変化から導かれたものには違いないが、〈かつてあったか〉という問いが、その執拗な繰り返しからは、語り手イエスのものというより、イエスに語らせているハーバート自身のものと感じられることから、それはまた、次の星野のことばからうかがえるように、十字架上の〈痛み〉に同一化してイエスに語らせるハーバートに、さらに星野自身が同一化しながら読むことで得られた確信でもある――

わたしはかねがね、旧約・詩篇を幾度となく繰り返し読んでいたからだろうか。この第五四連をはじめて読んだとき、体の中を何か電流のようなものが駆け抜けた気がした。やがてあれはハーバートの魂だったのではないか、と思うようになった。今でもこの四行詩を読み返す度に、わたしの肩の辺りに彼の魂が寄り添って、背後からわたしを支えてくれているような気配を感じるのだ。[9]

ハーバートの特徴的な語彙使用の傾向から、〈痛み〉の原語"grief"には中期英語に遡る〈身体的苦痛〉が含意されることも傍証とし、この〈痛み〉を身体化して読み進めるなかで到達する第六三連――

But now I die; now all is finished.
My wo, mans weal: and now I bow my head.
Onely let others say, when I am dead,

は容易に想像できるが、〈可能なことが、直ちに意義があるとは限らないにせよ〉と、あくまで〈変化〉の可能態にすぎないという含みをもたせた慎重な言い回しからは、〈タイポロジー〉による読みを有意味とする可能性は、読者の信仰の強さと、それにもとづくハーバートへの共感と理解の度合とも深くかかわる、と星野が認識していることがわかる。

そのような〈変化〉を瞬時に認める感性は、むろん読者の信仰心と無関係ではないから、『旧約聖書』と『新約聖書』の聖句〈それぞれの固有の意味〉に鋭敏であることに加えて、両者の照応関係に架橋する想像力によっても相互規定的に醸成されるはずで、実際、星野の「犠牲（いけにえ）」論は、その関係を成立させる読みの可能性を示すことで展開する。その議論の一例として――

OH all ye, who passe by, whose eyes and minde
To worldly things are shrap, but to me blinde;
To me, who took eyes that I might you finde:
Was ever grief like Mine?

〈おお道行くすべてのひとびとよ〉、あなた方の目と心は
世俗のものごとには鋭いけれど、わたしに対しては盲目、
あなた方を見出さんがために、肉の目を備えたわたしには。
この痛みに比えられる痛みがかつてあったか？

この第一連について星野は、最初に〈おお道行くすべてのひとびとよ〉の呼びかけが、「哀歌」一章十二節〈あなたがたは何とも思わないのか／道行くすべての人よ、見よ、目を留めよ／これほどの痛みが私に負わされたことが／あっただろうか〉からの引用であることにふれ、次にその聖句が、エルサレムを荒廃させた罪からの回復の可能性を反映するように、「マタイによる福音書」二七章三九節‐四十節〈そこを通りかかった人々は、頭を振りながらイエスを罵って、言った。「神殿を壊し、三日で建てる者、神の子なら、自分を救ってみろ。そして十字架から降りて来い」〉と照応して、〈一瞬の内に現前させる迫力〉をもって〈タイポロジー〉が成立することを指摘する。その上で詩句の必然的選択と配置について、次のように説明する――

三行目の〈肉の目を備えたわたし〉とは、神の霊が人の肉を帯びたことで、それも人を救済するためであること、それが〈あなた方〉には全く理解されない苦しみ、他の誰でもない、正しくイエスなるが故の〈痛み〉を語るのだ。[8]

人類救済のための肉化の奇蹟にふれながら、その人びとの無理解による〈苦しみ〉を〈他の誰でもない、正しくイエスなるが故の〈痛み〉〉と敷衍するのは、星野自身のキリスト教神学の理解と信仰心にほかならない。こうした記述が引き出されるためには、預言者エレミアの訴えを〈予表〉（type）としたときに、その実現である〈対型〉（anti-type）が「マタイによる福音書」二七章三九節‐四十節にあたること、この〈タイポロジー〉をハーバートが見出し、それを詩句にしのばせて第一連が書れているという理解が必要となる。このような思考に裏打ちされた詩法が、星野のいう〈予表的想像力〉ということになるが、ハーバートが抽出した〈タイポロジー〉を、ことばの自律性に留意しながら解きほぐしていく作業は、したがって読者自身の信仰のありかを問い直す機会ともなる。

But all the constellations of the storie.
This verse marks that, and both do make a motion
　Unto a third, that ten leaves off doth lie:
　Then as dispersed herbs do watch a potion,
These three make up some Christians destinie:

おお、そなたのすべての光がどのように結び合っているのか、
　また、それらの栄光の配列が、私に判ればよいのだが！
　そなたの各節がいかに輝いているかをのみでなく
物語が織りなす星座をも　みな見究めながら。
この一節があの一節に目を留める、次にこれら二節が　十頁も離れた
　もう一節に　合図を送る。
　それから、ばらばらの薬草が互いに結び合って一服の
　　良薬を目指すごとく、
これら三節は　あるキリスト者の運命を　つくり上げる。(4)

異なる文脈に、しかし実際には〈栄光の配列〉で〈聖書〉に埋め込まれたことばが、〈互いに結び合って〉聖なる〈物語〉を〈織りなす星座〉となるように、一挙全体的に〈あるキリスト者の運命〉を決めるほどの新しい文脈を構成する照応関係は、古代と現代の間に時空を越えた連続的関係を結び、その相互照射によって詩的創造の可能性をさぐる神話批評――星野が初期の詩的営為の根拠とした――にも、また文脈を越えたことばの不意な遭遇を実現することでは、形而上詩人ジョン・ダンに代表される〈コンシート〉にも通じるものがある。その点で星野の〈タイポロジー〉への気づきは、十字架上のイエスの〈劇的独白〉で書かれている「犠牲」によることも含め、詩人としての原点回帰のようにも映る。(5) ここでさらに、〈タイポロジーの成立は、或る特定の宗教がキリスト教であることのアイデンティティとして逆に機能することも、分ってくる〉(6) という星野の認識に注目すれば、〈タイポロジー〉を意識することは、それがキリスト教の神学に深くかかわることでもあるから、少なくとも星野にとって、〈あるキリスト者の運命〉または〈アイデンティティ〉を保証するものであり、言い換えれば、星野自身の信のありかと、その強さを示すひとつの指標にさえなり得ると考えられる。

そうであるなら、エンプソンとチューブの読みに代わる、詩篇に構造的に内在する〈タイポロジー〉にもとづく読みの根拠をうかがわせる次の一節にしても、テキストの〈意味論的分析批評〉の可能性にふれたものと見るだけでは十分ではない――

もしも言葉同士が不意に遭遇して、相互に条件反射的に反応し、それぞれの固有の意味に変化が生じた場合には、意味論的分析批評の適用が可能となるだろう。だが可能なことが、直ちに意義があるとは限らないにせよ、ではむろんあるが――。

ここでは〈タイポロジー〉が成立したときに生じる〈それぞれの固有の意味〉の〈変化〉について語られているが、その場合、〈言葉〉の〈不意〉な〈遭遇〉を必然的なものとして、すなわち、そこに内在する神学的・教義的関連性を〈条件反射的に〉感知し、そのとき〈変化〉と捉えるだけの感性が読者の裡に前提としてなければならない。そしてこのハーバートの信仰詩を読む上で理想的ともいえる読者が、星野自身の読みから帰納される読者であること

星野徹の〈予表的想像力〉

菅野弘久

【要旨】星野徹は、〈タイポロジー〉を意識したジョージ・ハーバートの詩作態度を〈予表的想像力〉と名付け、そこに意味論的分析批評や歴史主義的批評にはない批評の可能性も認めた。その主張を「犠牲（いけにえ）」の読みから確認し、次に星野が〈予表的想像力〉を援用して書いた「伝承」を分析することで、詩集『祭その他』（二〇〇一）では、T・S・エリオットへの接近から早い時期に意識されていた、〈ロゴスの言葉への肉化〉という詩的表現の理念を実現し、星野が志向した形而上詩の可能性をさらに広げる段階に入りつつあることを論じた。

星野徹は、ジョージ・ハーバートの詩篇「犠牲（いけにえ）」"The Sacrifice"に関する一連の論考で[1]、ウィリアム・エンプソンの意味論的分析批評とローズモンド・テューヴの歴史主義的批評、それぞれの有効性と限界を認めた上で、詩篇に構造的に内在する〈タイポロジー〉を前景化した読みを提案し、実践してみせる。〈タイポロジー〉とは、『旧約聖書』にあらわれた〈予表〉が『新約聖書』において成就する照応関係――〈私が来たのは律法や預言者を完成するためである〉[2]――また、その聖書釈義のことをいうが、ハーバートの詩には『聖書』に対する彼自身の〈予表的読み方〉（typological reading）に起因する〈スリリングな思考や感受〉にあふれていることから、星野はハーバートの詩の特徴を簡潔に示すものとして、その詩法を〈予表的想像力〉と呼ぶ[3]。そこには同じような発想から、星野自身の創作の可能性を拡げ得ることへの期待も感じられる。本稿では、星野の詩的営為における〈予表的想像力〉が持つ意味について考えてみたい。

＊

ジョージ・ハーバートが〈タイポロジー〉を意識していたことは、たとえば「聖書」"The H. Scriptures"の一節からもうかがえる――

O that I knew how all thy lights combine,
And the configurations of their glorie!
Seeing not onely how each verse doth shine,

二〇二二年二月一日受付
KANNO Hirohisa　キャリア教養学科・教授（イギリス文学）

常磐短期大学研究紀要寄稿規程

制定　1976年11月24日　教授会
改正　2021年７月13日

（目的）
第１条　この規程は、常磐短期大学紀要編集委員会（以下「委員会」という。）が行う編集作業に関して必要な事項を定めることを目的とする。
（寄稿資格）
第２条　常磐短期大学研究紀要（以下「紀要」という。）へ寄稿する資格を有する者は、常磐短期大学紀要編集委員会規程第6条に規定する者とする。
（論文の種類）
第３条　紀要に掲載される論稿は、学術論文として相応しい内容と形式を備えたものであり、次の各号のいずれかに当てはまるものでなければならない。
１　論文：学術論文に相応しい内容と形式を備えた理論的または実証的な未発表の研究成果をいう。
２　研究ノート：研究途上にあり、研究の原案や方向性を示した未発表の研究成果をいう。
３　報告：教育実践等の総括であって未発表のものをいう。
４　書評：新たに発表された内外の著書または論文の紹介であって未発表のものをいう。
５　その他：その他の論稿であって、委員会が寄稿を認めたものをいう。
（原稿提出要領）
第４条　寄稿希望者は、委員会が定める原稿募集要領に従って寄稿希望書ならびに原稿を委員会に提出しなければならない。
②　委員会に提出する原稿は、寄稿規程第3条に定める論稿の種類に当てはまるものでなければならない。
③　人および動物が対象である研究は，倫理的配慮について本文中に明記されていなければならない。
④　委員会に提出できる原稿は、原則として各号につき１人１編とする。
⑤　原稿は、電子データおよび40字30行でA4版用紙に印刷されたものを提出する。
⑥　原稿の長さは、図表等を含め、論文は24,000字、研究ノートは12,000字、報告は12,000字、書評は4,000字を基準とする。その他のものについては、委員会で決定する。
（原稿執筆要領）
第５条　寄稿希望者は、原稿執筆に当たっては、次の各号に従わなければならない。
１　原稿の１枚目には、原稿の種別、題目、著者名および欧文の題目、ローマ字表記の著者名を書くこと。
２　論文には、アブストラクト（日本語または英語）を付すこと。
３　書評には、著者名、書名のほか出版社名、発行年、頁数を記載すること。
４　日本語以外で執筆された部分については、執筆者の責任においてネイティヴチェックを行う。
５　数字は、原則として算用数字を使用する。
６　人名、数字、用語、注および（参考）文献の表記等は、執筆者の所属する学会などの慣行に従う。
７　図および表は、一つにつきA4版の用紙１枚に描き、本文には描き入れない。なお、本文には、必ずその挿入箇所を指定すること。
８　図表の番号は、図2.、表1.、とする。そのタイトルは、図の場合は図の下に、表の場合は表の上に記載すること。
９　図表の補足説明、出典などは、それらの下に書くこと。
（掲載内容の選考）
第６条　委員会は、研究紀要の学問的水準を維持するために、投稿論文等を検討し、必要な場合には、修正または掲載見送りを求めることができる。
②　委員会は、特に論文については、委員会が委嘱した者の査読を経た後、査読者の意見により、内容の修正を求め、また掲載の適否を判断することができる。
（著作権）
第７条　紀要に掲載された論稿の著作権は、委員会に帰属する。ただし、著者による転載・複製・翻訳・翻案等の利用を妨げるものではない。
（発行報告）
第８条　執筆者は、本人が寄稿した研究紀要の発行報告に代えて、論稿が掲載された当該研究紀要2冊と抜粋40部を学事センターにおいて受け取ることができる。
②　執筆者が前項に規定する数量を超える複製を希望する時は、本人がその実費を負担しなければならない。

附　則
１　この規程の改廃には、教授会出席者の3分の2以上の同意を必要とする。
２　この規定の改正条項は、改正の日から施行する。

常磐短期大学研究紀要　第50号（2021年度）

令和４（2022）年３月31日発行
発行者　常 磐 短 期 大 学
〒310-8585　水戸市見和１丁目430番地の１
電　話　029－232－2511㈹
印刷所　山三印刷株式会社
〒311-4153　水戸市河和田町4433の33

編集委員会
委員長　菅野　弘久
委　員　石﨑ちひろ　村上八千世
大内　晶子　笹原　康孝
髙池　宣彦
（アルファベット順）

Bulletin
of
Tokiwa Junior College

No.50

Contents

Article

KANNO Hirohisa: Toru HOSHINO's "Typological Imagination" 56

Research Note

WATANABE Kenji: A Study on Koda Rohan and "Children's Literature" 42

Reports

SASASE Sayoko: The Action Change of the Students in the Visitor Reception Practical Skill—The View of Organization Learning— 1

TAKAIKE Norihiko: Examining the Career Framework of Japanese Librarians 11

Tokiwa Junior College
March 2022